

2024 年度

保健医療学部 新入生調査

調査報告書

令和 6 年 10 月 1 日

札幌医科大学 医療人育成センター 統合 IR 部門

保健医療学部 IR 連携ワーキンググループ

目 次

I. 新入生調査の概要	4
① 目的.....	4
② 方法.....	4
(1) 調査期間.....	4
(2) 調査方法.....	4
(3) 調査対象.....	4
(4) 調査内容.....	4
③ 結果・考察.....	4
(1) 回収率.....	4
(2) 基本属性（居住地、交通手段、PC等の保有）.....	4
(3) 高校生時代からの学習状況、知識・能力の自己評価.....	4
(4) 進路選択に関わる情報収集と意思決定について.....	5
(5) 大学入学後の不安・期待、活動について.....	5
II. 結果・考察	6
① 基本属性.....	6
(1) 入試区分（図1）.....	6
(2) 入学前の居住地（2月時点）（図2）.....	6
(3) 入学後の住まい（図3）.....	6
(4) 主な通学手段（複数選択可）（図4, 図5）.....	6
(5) 情報端末の所有（図6）.....	6
② 高校生時代からの学習状況、知識・能力の自己評価.....	6
(1) 高校3年生の9月頃における平日の勉強時間（学校での授業を除く）（図7）.....	6
(2) 高校時代における能動的な学習の経験（図8, 図9）.....	7
(3) 現時点（4月）での知識・能力の自己評価（図10, 図11）.....	7
③ 進路選択に関わる情報収集と意思決定について.....	7
(1) 札幌医科大学を受験することを決定した時期（図12）.....	7
(2) 進路選択をする際に役立った情報（複数選択）（図13, 図14）.....	8
(3) 本学を知るうえで役立った情報源（複数選択）（図15, 図16）.....	8
(4) 札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会への参加率・満足度（表1, 図17, 図18）.....	8
(5) 本学への入学(受験)を決めるにあたり、誰からの意見やアドバイスを最も重視したか（図19）.....	9
(6) 札幌医科大学の選択理由（図20, 図21）.....	9
(7) 札幌医科大学の魅力（図22, 図23）.....	9
(8) 建学の精神の認知度（図24）.....	10
(9) アドミッションポリシーの認知度（図25）.....	10
④ 大学入学後の不安・期待、活動について.....	10
(1) 札幌医科大学への入学決定にあたっての気持ち（図26, 図27）.....	10
(2) 入学にあたって、不安に思っていること（図28, 図29）.....	10

(3) 大学生活の中で力を入れたい活動 (図 30, 図 31)	11
(4) 現在 (4月) 困っていること (自由記載) (表 2)	11
(5) 札幌医科大学で何を求め、どんなことに取り組みたいか (自由記載) (表 3)	11
Ⅲ. 図表	12
Ⅳ. 資料 (調査票)	30

1. 新入生調査の概要

① 目的

本調査は、医療人育成センター統合 IR 部門が学部別実施している調査の一環で、保健医療学部では 2023 年から調査を実施している。本調査は、1 年生を対象に入学直後に調査を行うことから、1) 学習、生活、心理面などさまざまな観点から新入生に必要な支援を検討することと、高校生時代に本学を受験することを決定した過程や学習の状況について調査を行い、翌年度以降の 2) 入学試験のあり方や各高校/高校生への情報提供や広報のあり方を検討する資料を得ることを目的としている。

② 方法

(1) 調査期間

2024 年 4 月

(2) 調査方法

アプリケーション Qooker を用いたインターネット調査

(3) 調査対象

2024 年度保健医療学部入学生（1 年生）90 名

(4) 調査内容

2023 年度に医療人育成センター統合 IR 部門、保健医療学部 IR 連携 WG にて内容を検討し、保健医療学部拡大学科長会議、保健医療学部教務委員会/カリキュラム委員会での審議を経て内容を確定し、2024 年度は一部の項目を改定して調査を行った。

(ア) 基本属性（居住地、交通手段、PC 等の保有）

(イ) 自身のコンピテンシーの認識

(ウ) 高校生時代の生活、学習、意思決定について（進路選択、学習時間、学習経験）

(エ) 本学との関わり、認識（オープンキャンパス等への参加、本学の魅力、建学の精神やアドミッションポリシーの認知）

(オ) 大学生活への期待・不安、抱負

③ 結果・考察

(1) 回収率

1 年生全 90 名を対象とし、70 名から回答を得た（回収率 77.8%）。学科別では、看護学科 42 名（84.0%）、理学療法学科 9 名（45.0%）、作業療法学科 19 名（95.0%）から回収が得られた。今年は理学療法学科からの回答が十分に得られなかったため、調査結果の読み取りについては、選択バイアスが生じる可能性について留意する必要がある。

(2) 基本属性（居住地、交通手段、PC 等の保有）

入学前の居住地は「札幌市外（北海道内）」が 57.1%、「札幌市内」が 40.0%で、「北海道外」（2.9%）はわずかであった（図 2）。入学後の居住形態は「自宅（親所有の家・マンション等）」が最も多く（67.1%）、次いで「アパート（賃貸）」が 32.9%であった（図 3）。

主な通学手段（複数選択可）は「地下鉄」（56.5%）、「徒歩」（50.7%）、「自転車」（34.8%）が多かった（図 4）。

情報機器の所有状況は、「PC（自分専用）」「プリンタ」の所有率はそれぞれ 92.9%、71.0%であった（図 6）。2023 年度からは大きな変化は無い。プリンタの必要性については、入学前から情報提供を行って準備を促す必要性がうかがえる。

(3) 高校生時代からの学習状況、知識・能力の自己評価

高校 3 年生 9 月頃における平日の勉強時間は「3～5 時間未満」（53.6%）が最も多かったが、それより

も短いまたは長いなど、個人差が認められた（図 7）。高校時代における能動的な学習については、例年同様に「学習したことについてプレゼンテーションを行う」（68.6%）が最も低く、大学での学習に適応するための指導が必要とされる（図 8）。知識・能力の自己評価については、今年新設した「他者とのコミュニケーション能力」は 78.5%が備わっているとの回答が得られた。昨年との比較では、「パソコンのソフトウェアの操作」が 15.8%（2023 年度は 29.3%）と低いため、入学後早期の教育においては、学生の能力を考慮した課題提示が必要と考えられる。

（4）進路選択に関わる情報収集と意思決定について

札幌医科大学を受験することを決定した時期は「高校 3 年生 4～12 月」（34.3%）が最も多かったが、個人によって決定時期は高校入学前から卒業後まで大きく異なる（図 12）。時期に合わせた情報提供が求められる。

進路選択をする際に役立った情報について、「大学パンフレット」（94.3%）と「大学ホームページ」（80.0%）が最も活用されていた（図 13）。これらの媒体の内容のさらなる充実を図るとともに、他の媒体の有効性について検討する必要がある。

本学を知るうえで役立った情報源（複数回答）は「オープンキャンパス」（50.7%）が最も多く、前年度からの伸びも大きい（図 15）。「オープンキャンパス」の参加率は半数強（54.3%）であったが（表 1）、満足度は 97.4%と高く、その内訳も今年度は「満足」がほとんどであるため（図 17）、本学の魅力を伝える有効な手段として、オープンキャンパスの重要性は増しているといえる。

本学を知るうえで役立った情報源（複数回答）は、「オープンキャンパス」に次いで「高校の先生」（47.8%）、「入試相談・説明会」（43.5%）が多くなっていた（図 15）。また、「高校で実施された大学説明会」への参加率も 77.1%と高いため（表 1）、各高校との連携が今後重要になると考えられる。

本学への入学（受験）を決めるにあたり意見やアドバイスを最も重視した相手は、「高校の先生」（40.0%）が最も多く、次いで「両親・保護者」（28.6%）、「塾・予備校の先生」（17.1%）であった（図 19）。本学を知る上での情報源も「高校の先生」や「家族」が挙げられていることから、高校生本人の周囲の者までを視野に入れた情報提供のあり方を検討する必要がある。

本学を選択した理由は、「カリキュラムや授業構成」（69.8%）、「教授・講師陣が充実している」（67.7%）、「入学金・学費などの適切性（国公立だからを含む）」（63.9%）、「キャンパスの立地や周辺環境」（62.5%）が多くなっていた（図 20）。これらの強みを活かした広報戦略が求められる。

（5）大学入学後の不安・期待、活動について

札幌医科大学が入学を希望していた大学/学部であるかどうかは、2024 年度については「大学」（97.2%）、「学部」（97.2%）のいずれも学生が肯定的な回答をしていた（図 26, 図 27）。入学にあたって、不安に思っていることは、「学業についての不安」（72.5%）が最も多く、次いで「友人などの人間環境」（50.7%）が多かった（図 28, 図 29）。各学科の学生の状況をふまえ、学生が相談できる環境の構築とその周知が肝要と考えられる。

大学生活の中で『特に力を入れたい』の割合が最も高かったのは、「学部の専門的な勉強」（97.2%）、「一般教育科目の勉強」（88.2%）、「語学に関する勉強」（84.3%）、「アルバイト」（77.1%）、「部活・サークル活動」（74.3%）だった（図 30）。「海外への短期留学」は、『力を入れたいと思わない』と回答した学生も多く（34.3%）、引き続き、国際化に向けた啓発が必要と考えられる。札幌医科大学で何を求めどんなことに取り組みたいかについては、「専門的な知識や技術の習得」、「コミュニケーション能力の獲得」が挙げられており、学生のニーズを満たすこれらの教育について、一層の充実が望まれる（表 3）。

II. 結果・考察

① 基本属性

(1) 入試区分 (図 1)

入試区分について、「一般選抜」、「学校推薦型選抜」の二肢択一で回答を得た。学校推薦型選抜の合格者数及び回答者数の変動に応じて、学科・年度による入試区分別合格者の割合は異なっていた。

(2) 入学前の居住地 (2月時点) (図 2)

出身地について、「札幌市内」、「札幌市外 (北海道内)」、「北海道外」の三肢択一で回答を得た。

その結果、2023年度は「札幌市内」と「札幌市外 (北海道内)」がほぼ同数であったが、2024年度は札幌市外 (北海道内) 出身の学生が多くなっていた (57.1%)。

(3) 入学後の住まい (図 3)

入学後の住まいについて、「自宅 (親所有の家・マンション等)」、「アパート (賃貸)」、「下宿・寮」、「その他」の四肢択一で尋ねた。

その結果、学部全体では、「自宅 (親所有の家・マンション等)」が最も多く 67.1%を占めていた。次いで、「アパート (賃貸)」が 32.9%を占め、「下宿・寮」「その他」はいなかった。今年度は、学科による住まいに大きな違いは見られなかった。

(4) 主な通学手段 (複数選択可) (図 4, 図 5)

主な通学手段について、「徒歩」、「自転車」、「地下鉄」、「バス」、「市電」、「JR」、「その他」のうち複数選択可で尋ねた。

その結果、最も多かったのは「地下鉄」で 56.5%を占め、次いで「徒歩」が 50.7%であった。さらに「自転車」、「JR」、「バス」、「市電」の順で回答が多かった。

(5) 情報端末の所有 (図 6)

自分専用のパソコンと印刷できるプリンタの所有状況を尋ねた。

その結果、「PC (自分専用)」の所有率は学部全体で 92.9%であった。看護学科は 95.2%で、理学療法学科 88.9%、作業療法学科 89.5%よりも高い所有率であった。「プリンタ」の所有率は学部全体で 71.0%であり、理学療法学科は 55.6%と他学科よりも低い結果であった。

本結果から、レポートや講義・実習資料の印刷などの学習への準備性において、継続した検討課題であることがわかった。一方で、学生自身がタブレット等を用いて授業資料をデジタル化して学習する場面も多く見受けられるため、講義・演習におけるペーパーレス化も検討すべき課題であると考えられる。

② 高校生時代からの学習状況、知識・能力の自己評価

(1) 高校3年生の9月頃における平日の勉強時間 (学校での授業を除く) (図 7)

高校3年生の9月頃における平日の勉強時間について、「ほとんどしなかった」、「1時間未満」、「1~3時間未満」、「3~5時間未満」、「5~7時間未満」、「8時間以上」の六肢択一で回答を得た。

その結果、「3~5時間未満」が最も多く 53.6%、次いで「1~3時間未満」が 20.3%、「5~7時間未満」が 15.9%であった。2023年度と比較すると「3~5時間未満」が増え、「1~3時間未満」と「5~7時間未満」がともに減少していた。学科別にみると、理学療法学科が「5~7時間未満」の割合が 22.2%と他学

科より高く、看護学科と作業療法学科では、「8時間以上」の者が10%程度を占めていた。

(2) 高校時代における能動的な学習の経験 (図8, 図9)

高校時代における能動的な学習について、「自分から先生に質問や相談に行く」、「自分で設定したテーマについて学習する」、「学習したことについてプレゼンテーションを行う」、「複数の学生で一つのテーマ(課題)に取り組む」、「学生同士でディスカッションを行う」の経験の有無について回答を得た。

その結果、「複数の学生で一つのテーマ(課題)に取り組む」、「学生同士でディスカッションを行う」、「自分から先生に質問や相談に行く」は90%前後が経験していた。しかし、「自分で設定したテーマについて学習する」は77.1%、「学習したことについてプレゼンテーションを行う」は68.6%であった。

年度別では、2022年度、2023年度の結果とほぼ同様の傾向であった。

学科別では、理学療法学科において「自分で設定したテーマについて学習する」(55.6%)、「学習したことについてプレゼンテーションを行う」(44.4%)について、経験した学生の割合が低くなっていた。

自分自身でテーマを設定した経験やプレゼンテーションを積極的に行なった経験は、自分の学習課題や医療・社会全般の課題を主体的に提起することにつながる。医療専門職を目指す本学部の学習において、能動的学習は必須であり、上記経験の少ない学生への意識・動機付け、指導が必要であると考えられる。

(3) 現時点(4月)での知識・能力の自己評価 (図10, 図11)

新入生の知識・能力について、「医療系の専門に係る知識」、「幅広い教養」、「英語(外国語)の運用能力」、「社会の課題を自らの課題として捉えられる問題発見力」、「課題を解決するための問題解決力」、「異文化や異なる背景をもつ人々に対する理解力」、「他者とのコミュニケーション能力(2024年度調査からの新設項目)」、「パソコンのソフトウェアの操作(Ms-Office等)(2023年度調査からの新設項目)」、「SNSを安全に使うためのルール・方法(2023年度調査からの新設項目)」の7項目がどの程度備わっているのか、『充分備わっている』から『全く備わっていない』の五肢択一の回答を得た。

その結果、『あまり備わっていない』と『全く備わっていない』をあわせた回答の割合が高いのは、「医療系の専門に関する知識」(71.4%)、「パソコンのソフトウェアの操作」(67.1%)、「英語(外国語)の運用能力」(31.4%)であった。一方で、「SNSを安全に使うためのルール・方法」は『充分備わっている』または『ある程度は備わっている』と回答した割合が、2023年度と同様に高かった(95.7%)。学科別にみると、全体的な傾向は学科間で同様であるが、理学療法学科で「医療系の専門に係る知識」と「パソコンのソフトウェアの操作」の項目で『あまり備わっていない』または『全く備わっていない』と回答した割合が高く、他学科よりも自己評価が低い結果であった。

2022年度から2024年度までの傾向は、ほぼ同様の回答結果であった。新入生は医療系に関する専門知識を高校で学修していないこと、また日常の学習機会の中でパソコン(ソフトウェア)を操作する時間が少ないことが、この結果に反映されたものと推察される。英語(外国語)同様に、情報処理を含めた一般教育科目の充実、さらに入学早期からの専門科目への学習の動機付けを図る必要があると考えられる。一方で、「SNSを安全に使うためのルール・方法」の自己評価が高かったことは、現代の社会環境として、スマートフォンによるSNSの利活用が高校生の中にも広まっているものと考えられる。医療職への道を歩む学生に対しては、情報リテラシーの理解をさらに深めるための教育、指導が必要である。

③ 進路選択に関わる情報収集と意思決定について

(1) 札幌医科大学を受験することを決定した時期 (図12)

札幌医科大学を受験することを決定した時期について、「高校入学前」、「高校1年生」、「高校2年生」、「高校3年生4~12月」、「高校3年生1月以降」、「高校卒業後」の六肢択一で回答を得た。

その結果、「高校3年生4～12月」が最も多く34.3%、次いで「高校1年生」と「高校2年生」が同率で20.0%であった。学科別でみると、看護学科は「高校3年生4～12月」、理学療法学科は「高校1年生」と「高校2年生」、作業療法学科は「高校3年生4～12月」の割合が最も高かった。理学療法学科は高校2年生より前に本学への受験を決定している学生が6割以上であり、他の学科よりも決定が早い傾向がみられた。

高校での履修科目決定時期も踏まえ、できる限り早期に本学の魅力ならびに、受験に関わる情報を発信していく必要がある。

(2) 進路選択をする際に役立った情報（複数選択）（図13、図14）

進路選択をする際に役立った情報について、「大学パンフレット」、「大学ホームページ」、「受験企業等のWEBサイト」、「受験雑誌」、「大学ポスター」、「新聞記事等」、「その他」から複数回答可で回答を得た。その結果、「大学パンフレット」が最も多く94.3%で、次いで「大学ホームページ」が80.0%であった。「受験企業等のWEBサイト」、「受験雑誌」、「新聞記事等」、「その他」については1.4～10.0%であり、「大学ポスター」の回答はなかった。学科別にみると、理学療法学科は、他の学科と比較して、「大学ホームページ」が55.6%と少なく、「新聞記事等」が11.1%と多い傾向にあった。

大学パンフレットは高校訪問等で冊子を配布している他、大学ホームページに掲載しており、活用のしやすさがあったと思われる。このように受験希望者がいつでも閲覧できる媒体の充実が必要であるといえる。また、大学ホームページは、令和5年度に保健医療学部も全学のホームページに統合され、検索のしやすさや視認性等が向上し、以前よりも利用しやすい状況にある。今後はさまざまな情報をふまえ、その有用性を確認し、より効果的な媒体による情報提供をしていく必要があると考える。

(3) 本学を知るうえで役立った情報源（複数選択）（図15、図16）

本学を知るうえで役立った情報源として、「広告媒体」「出前講座」、「家族・親戚」、「オープンキャンパス」、「高校の先生」、「知人・先輩」、「入試相談・説明会」、「予備校」、「その他」から、複数回答可で回答を得た。

その結果、「オープンキャンパス」が50.7%と最も多く、次いで「高校の先生」が47.8%、「入試相談・説明会」が43.5%であった。学科別でみると、看護学科は「オープンキャンパス」が58.5%、「高校の先生」が51.2%と特に多かった。理学療法学科は、「オープンキャンパス」は33.3%、「高校の先生」も33.3%であり、他の学科に比べて少ない傾向が見られた。

看護学科や作業療法学科においては、「オープンキャンパス」や「高校の先生」の割合が高く、本学や他者から提供されることにより、情報を得ていた可能性が窺える。しかしながら、理学療法学科は、これらの割合は低く、これら以外の情報源を自ら探すことによって、情報を得ていた可能性が示唆される。アフターコロナとなり「オープンキャンパス」や「入試相談・説明会」など、本学の魅力を直接的に発信すること、高校訪問などを通じて高校の先生にも本学を知っていただく機会をもつことが重要だといえる。

(4) 札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会への参加率・満足度（表1、図17、図18）

「オープンキャンパス」、「高校で実施された大学説明会」、「塾・予備校で実施された大学説明会」、「一般の会場で実施された大学説明会」、「その他、模擬授業など」の全5項目について、その参加率と満足度の回答を得た。満足度については『満足』、『どちらかといえば満足』、『どちらかといえば不満』、『不満』から四肢択一の回答を得た。

参加率は、「オープンキャンパス」が54.3%、「高校で実施された大学説明会」が77.1%であり、参加率が高かった。

満足度は5項目全てにおいて、『満足』、『どちらかといえば満足』を合わせてほぼ100%に近い満足度であった。「オープンキャンパス」について『満足』と回答したのは86.8%であり、2023年度の62.2%よりも割合が高くなっていた。作業療法学科では他の学科より『満足』と回答した割合がやや低い傾向がみられた。一方で、「高校で実施された大学説明会」は、『満足』と回答した割合が2022年度・2023年度よりもやや低くなっており、改善の余地が示唆された。

(5) 本学への入学(受験)を決めるにあたり、誰からの意見やアドバイスを最も重視したか(図19)

本学への入学(受験)を決めるにあたり、最も重視した意見やアドバイスを受けた人について、「両親・保護者」、「兄弟・姉妹」、「高校の先生」、「塾・予備校の先生」、「親戚や知人」、「本学に在学中の友人や先輩」、「特に相談しなかった」の七肢択一で回答を得た。

その結果、「高校の先生」が最も多く40.0%、次いで「両親・保護者」が28.6%、「塾・予備校の先生」が17.1%の順であった。学科別にみると、看護学科は「高校の先生」の割合が高く(47.6%)、「両親・保護者」の割合が低い(19.0%)傾向がみられた。一方で、作業療法学科は「両親・保護者」の割合が他の学科と比較して高かった(47.4%)。

本学を知るうえで役立った情報と同様に「高校の先生」も進路選択の重要な役割を担っており、高校訪問を含め継続的な連携を図っていく必要がある。また、高校生のみではなく、その両親・保護者を含めて、情報提供の内容と方法を検討していく必要がある。

(6) 札幌医科大学の選択理由(図20, 図21)

札幌医科大学を選択した理由について、「札幌医科大学のブランドやイメージ」、「カリキュラムや授業構成」、「教授・講師陣が充実している」、「入学金・学費などの適切性(国公立だから、を含む)」、「キャンパスの立地や周辺環境」、「両親や先生から勧め」、「自分の能力レベルに相応」、「通学の利便性」の全8項目について、『大きな理由になった』、『少しは理由になった』、『情報はあったが、理由にはならなかった』、『情報がなかった・知らなかった』から四肢択一の回答を得た。

その結果、学部全体として『大きな理由になった』と回答したのは、「カリキュラムや授業構成」が69.8%と最も多く、次いで「教授・講師陣が充実している」が67.7%、「入学金・学費などの適切性(国公立だから、を含む)」が63.9%の順であった。

学科別にみると、理学療法学科では「教授・講師陣が充実している」が87.5%で高い傾向にあり、作業療法学科は「入学金・学費などの適切性(国公立だから、を含む)」(85.7%)を選択理由とした割合が高かった。

2022・2023年度と比較すると、「カリキュラムや授業構成」、「通学の利便性」が高くなっており、これらの強みを生かした広報戦略を練ることが重要である。

(7) 札幌医科大学の魅力(図22, 図23)

本学の魅力について、「札幌医科大学の教育方針・カリキュラムが魅力的である」、「札幌医科大学の教授陣が魅力的である」、「札幌医科大学の施設・設備が魅力的である」、「札幌医科大学周辺の環境が魅力的である」の4項目について、『そう思う』、『どちらかといえばそう思う』、『どちらともいえない』、『どちらかといえばそう思わない』、『そう思わない』、『わからない』から六肢択一の回答を得た。

4項目のうち『そう思う』と回答した割合が最も多かったのは、「札幌医科大学の施設・設備が魅力的である」の91.4%であり、「札幌医科大学の教育方針・カリキュラムが魅力的である」が80.0%と続いた。

学科別にみると、理学療法学科では、「札幌医科大学の教授陣が魅力的である」に『そう思う』と回答したのは88.9%であり、他の学科よりも高い数値を示した。札幌医科大学の施設・設備に関する評価は

既に得られているので、今後は教育方針・カリキュラム・教授陣の魅力を継続的に発信していくことが重要である。

(8) 建学の精神の認知度 (図 24)

本学の建学の精神について、「聞いたり読んだりしたことがあり、内容も理解している」、「聞いたり読んだりしたことはあるが、よく覚えていない」、「知らない、聞いたり読んだりしたことがない」から三肢択一の回答を得た。

その結果、学部全体及び各学科に共通して、「聞いたり読んだりしたことがあり、内容も理解している」と回答した割合が 62.9%で、2023 年度よりも減少していた。また、「知らない、聞いたり読んだりしたことがない」と回答する割合は 1.4%と低く、入学後により深い理解を促すための対応が必要と考える。

(9) アドミッションポリシーの認知度 (図 25)

保健医療学部のアドミッションポリシーについて、「聞いたり読んだりしたことがあり、内容も理解している」、「聞いたり読んだりしたことはあるが、よく覚えていない」、「知らない、聞いたり読んだりしたことがない」から三肢択一の回答を得た。

その結果、「聞いたり読んだりしたことがあり、内容も理解している」と回答した割合が 77.1%で、2023 年度とほぼ同様の傾向だった。「知らない、聞いたり読んだりしたことがない」と回答した者はいなかったため、アドミッションポリシーを理解した上で入学する傾向が高く維持されていると言える。

④ 大学入学後の不安・期待、活動について

(1) 札幌医科大学への入学決定にあたっての気持ち (図 26, 図 27)

札幌医科大学への入学決定にあたっての気持ちとして、「1. 入学を希望していた大学である」、「2. 入学した学部は希望通りの学部である」の 2 つの質問を設け、『そう思う』、『どちらかといえばそう思う』、『どちらでもない』、『どちらかといえばそう思わない』、『そう思わない』から五肢択一の回答を得た。

その結果、1 については、学部全体で『そう思う』(82.9%)、『どちらかといえばそう思う』(14.3%)を合わせて 97.2%であった。とくに、看護学科では『そう思う』が 85.7%を占めており、他学科よりも高かった。しかしながら、否定的な意見も 5%ほど認められており、入学後の動向に留意する必要があるだろう。

2 については、学部全体で『そう思う』、『どちらかといえばそう思う』を合わせて 97.2%であった。いずれの学科でも 90%以上の学生が、『そう思う』と回答しており、希望通りの学部に入學できたと考えている学生の割合が高かった。

(2) 入学にあたって、不安に思っていること (図 28, 図 29)

入学にあたって不安に思っていることについて、「経済的なこと」、「住まい・通学などの生活環境のこと」、「健康に関すること」、「学業についての不安」、「友人などの人間環境」、「卒業後の進路・勤務に関すること」、「その他」、「特にない」のうち、複数回答可で尋ねた。

その結果、「学業についての不安」が最も多く 72.5%であった。次いで、「友人などの人間環境」(50.7%)、「卒業後の進路・勤務に関すること」(24.6%)、「経済的なこと」(21.7%)、「住まい・通学などの生活環境のこと」(17.4%)、「健康に関すること」(8.7%)であった。「特にない」と答えた学生は 14.5%であった。2023 年度調査と比較して、2024 年度調査では、「学業についての不安」および「友人などの人間環境」の 2 項目に関する不安が 10 ポイント以上増加していた。学科ごとにみると、看護学科では「友人などの人間環境」(53.7%)が他学科に比較して多く、理学療法学科では「学業についての不安」(44.4%)

が低く、作業療法学科では「卒業後の進路・勤務に関すること」(36.8%)が多い傾向が見られた。

以上より、各学科の特徴をふまえた、新入生の不安軽減に向けた情報提供やサポート等が必要だと考える。

(3) 大学生生活の中で力を入れたい活動 (図 30, 図 31)

大学生生活の中で力を入れたい活動として、「学部の専門的な勉強」、「語学に関する勉強」、「部活・サークル活動」、「社会活動・ボランティア活動」、「海外への短期留学」、「アルバイト」、「一般教育科目の勉強」の 7 項目について、『特に力を入れたい』から『力を入れたいと思わない』の四択択一の回答を得た。

その結果、『特に力を入れたい』の割合が最も高かったのは、「学部の専門的な勉強」(90.1%)であり、次いで「一般教育科目の勉強」(31.4%)、「アルバイト」(25.7%)であった。

2023 年度と比較して、学習に関連しない項目において『どちらでもない』または『力を入れたいと思わない』の回答が増えており、学生が幅広い活動に興味を持つことが出来ていない可能性が示唆された。

(4) 現在 (4 月) 困っていること (自由記載) (表 2)

入学時点において困っていることについて自由記述で回答を求めたところ、看護学科 8 件、理学療法学科 1 件、作業療法学科 2 件の回答があった。

具体的には、「睡眠時間の確保」、「生活サイクルの安定」などの生活状況に関することが 5 件、「履修登録の方法」、「PC が自宅にないため機械操作に不安」といった学修システムや環境に関することが 3 件、「友人ができるか不安」など人間関係のことが 1 件、「授業についていけるかが不安」といった学業に関することが 2 件であった。

この欄に記載したのは全体の約 8%であったが、困っていることの内容は多岐に渡っていた。学修システムや環境など、学生生活を積み重ねるにつれて習得可能な内容もあるが、生活状況などは学生生活を通して持続的に続く可能性のある困り事であるため、学生自身で問題解決が困難になった場合に相談できる環境を作っていくことが必要である。

(5) 札幌医科大学で何を求め、どんなことに取り組みたいか (自由記載) (表 3)

札幌医科大学で何を求めどんなことに取り組みたいかについて、自由記載で回答を求めた。

看護学科では 27 件の回答が得られた。多く挙げられていたのは、「看護師としての専門的な知識や技術」、「コミュニケーション能力の獲得」、「主体性や行動力の強化」などであった。その他に、「地域医療への貢献意識」、「助産師や保健師などの進路」、「課外活動やアルバイトを通じた成長」、「自己の価値観を広げることの重視」などが挙げられた。理学療法学科は 6 件の回答が得られた。多く挙げられていたのは、「医療知識や技術の獲得」、「医療人としての人間性やコミュニケーション能力の獲得」であった。その他の回答としては、「海外で活躍するための準備」、「スポーツ理学療法」などが挙げられた。作業療法学科も 14 件の回答が得られた。多く挙げられていたのは、「コミュニケーション能力の獲得」や「専門科目の学習」であった。その他の回答としては、「海外で活躍するための準備」などが挙げられた。

全体を通して、「専門的な知識や技術の習得」や「コミュニケーション能力の獲得」などの回答が多く、医療人に求められる内容に対する意欲が高いこと推察できる。加えて、卒後を意識した進路や海外での活躍という回答もあり、保健医療専門職としての資質を高めながら、将来的に活躍できる人材を養成することが大学に求められている役割だといえる。

Ⅲ. 図表

図1. 入試区分

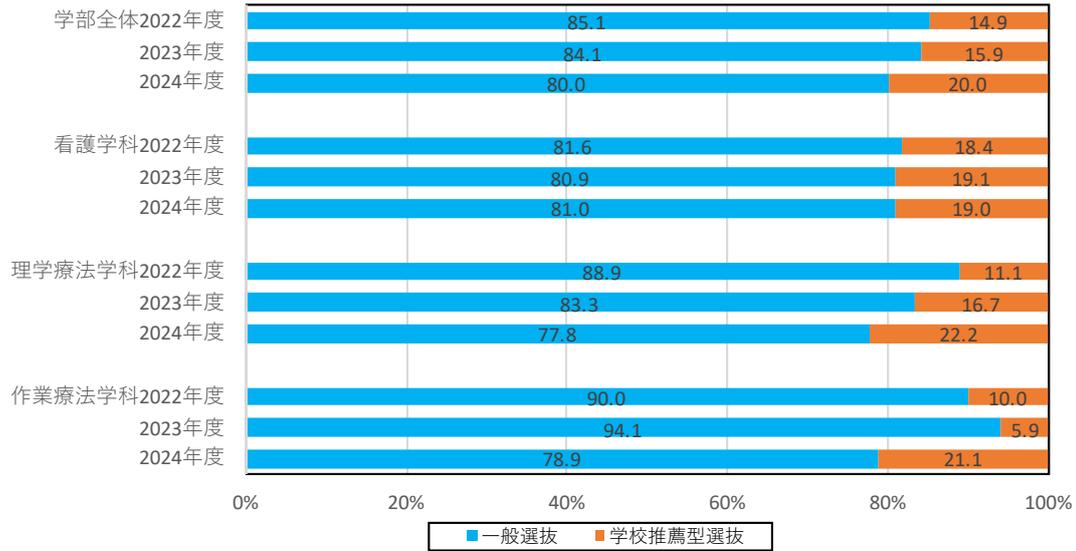


図2. 入学前の居住地 (2月時点の居住地)

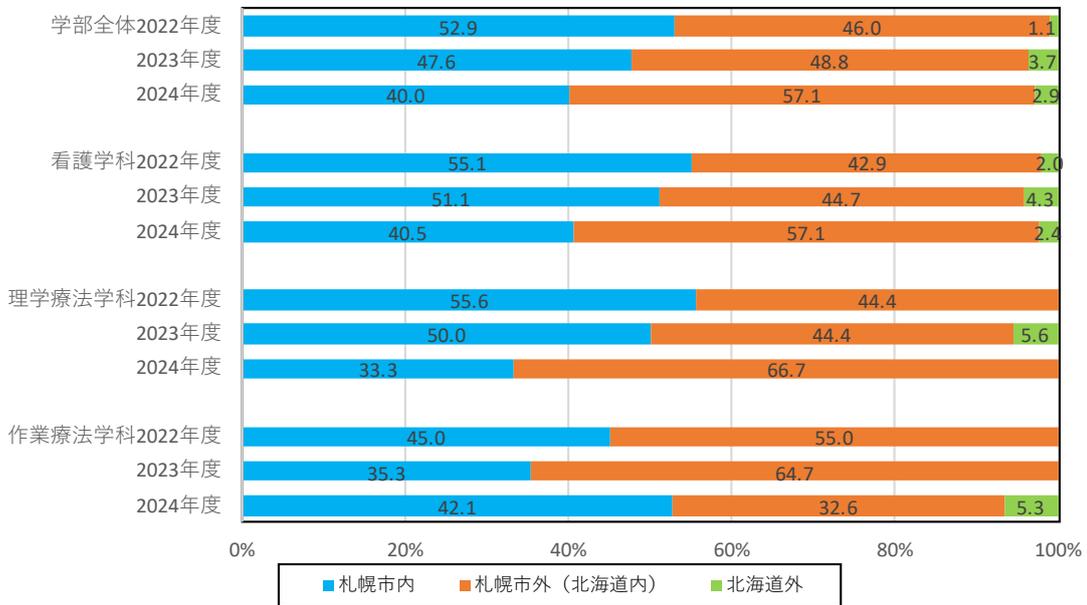


図3. 入学後の住まい

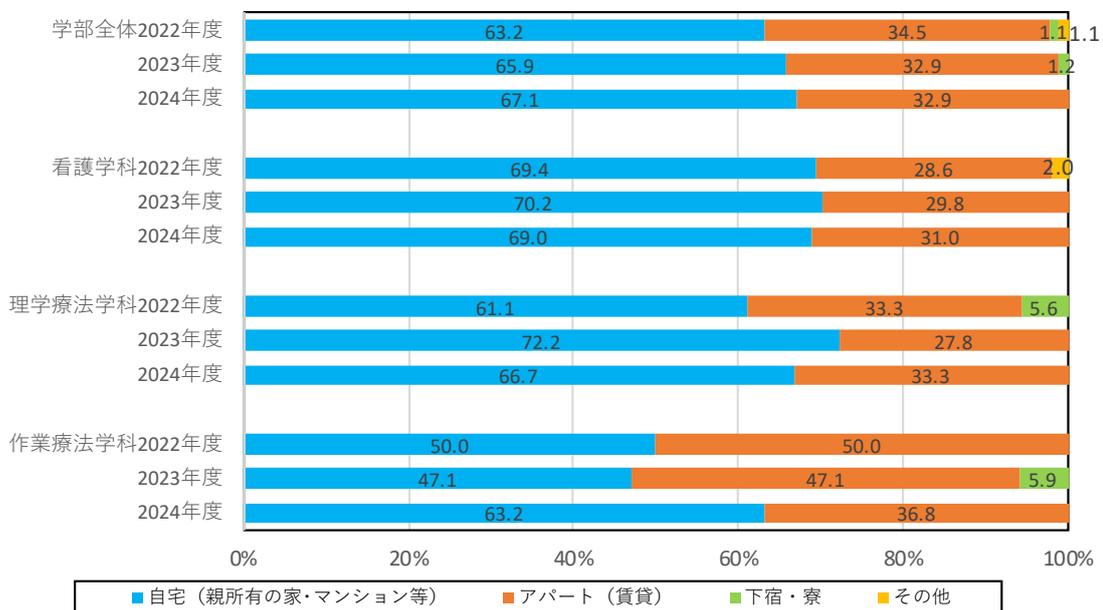


図4. 主な通学手段（複数選択可）

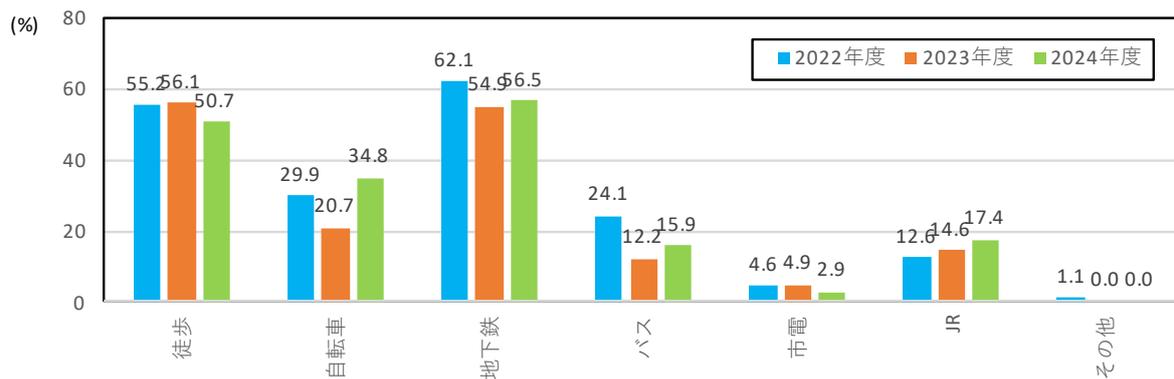


図5. 主な通学手段（複数選択可）：学科別（2024年度）

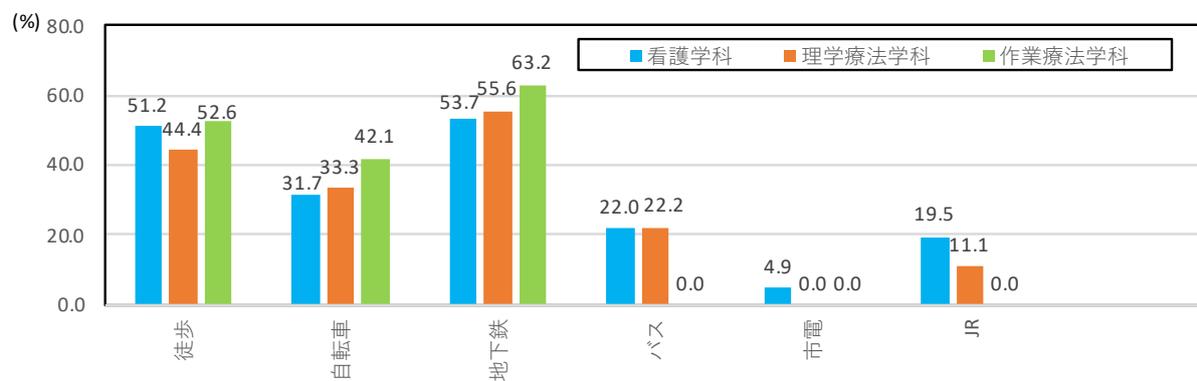


図6. 自分専用のパソコンと印刷できるプリンタの所有

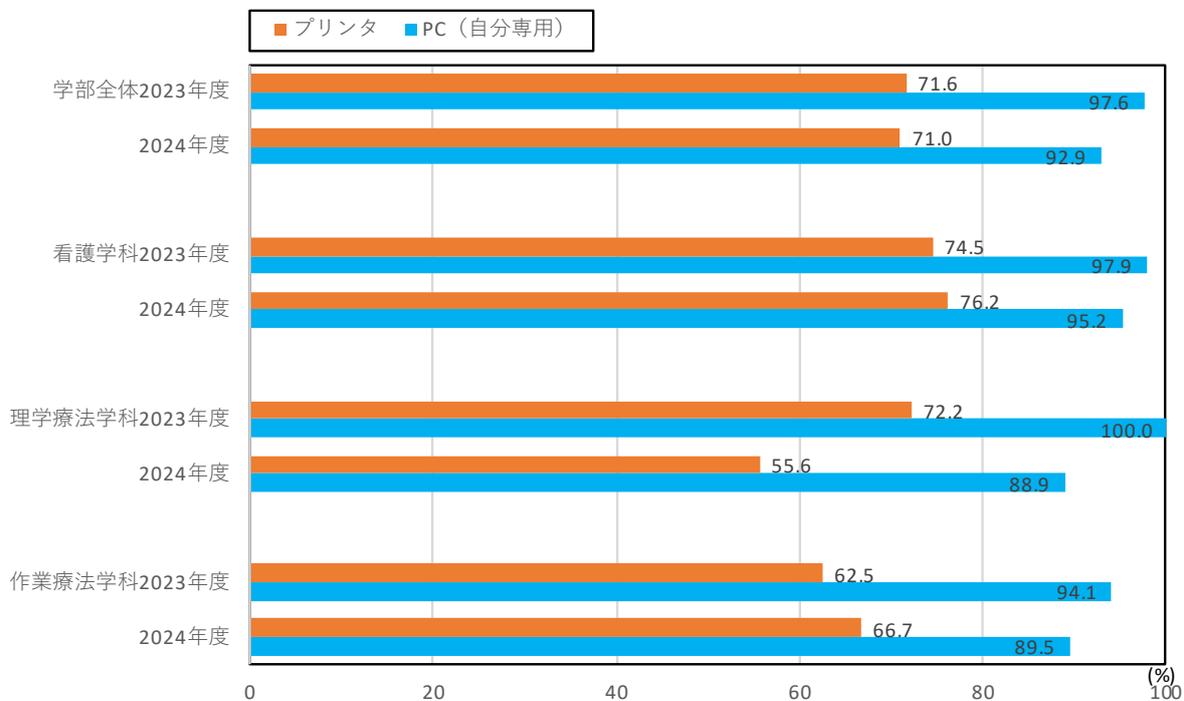


図7. 高校3年生の9月頃における平日の勉強時間（学校での授業を除く）

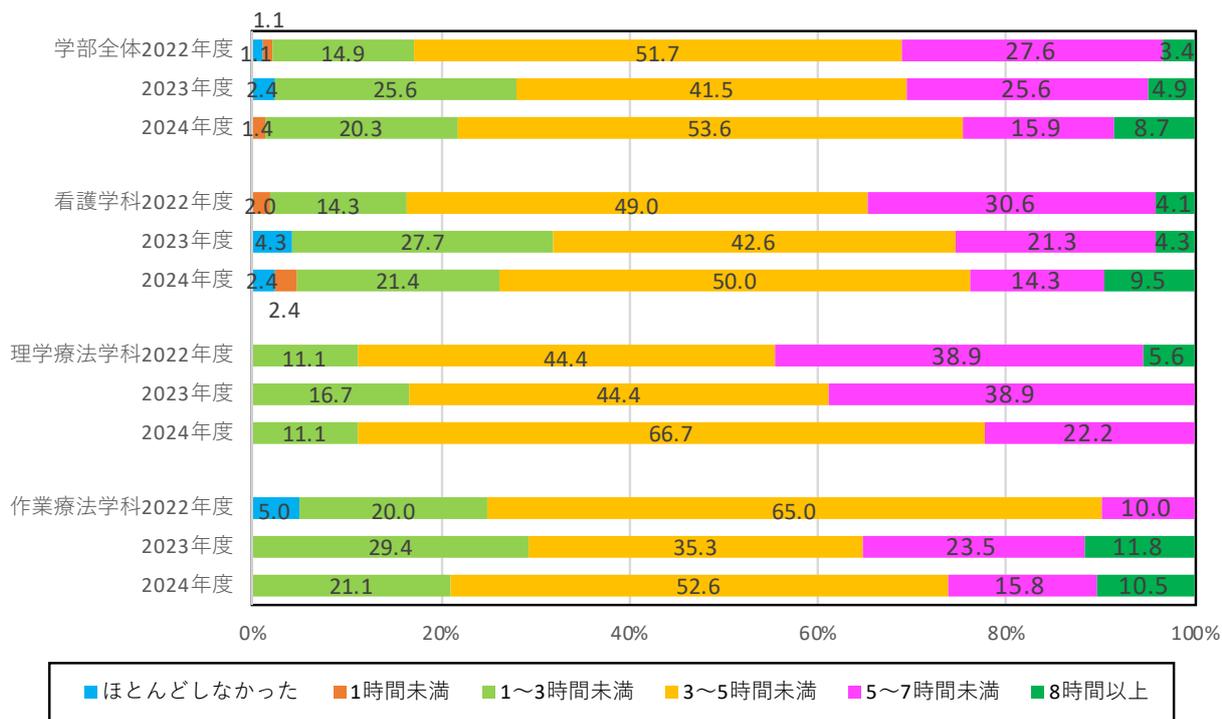


図8. 高校時代における能動的な学習の経験：学部全体

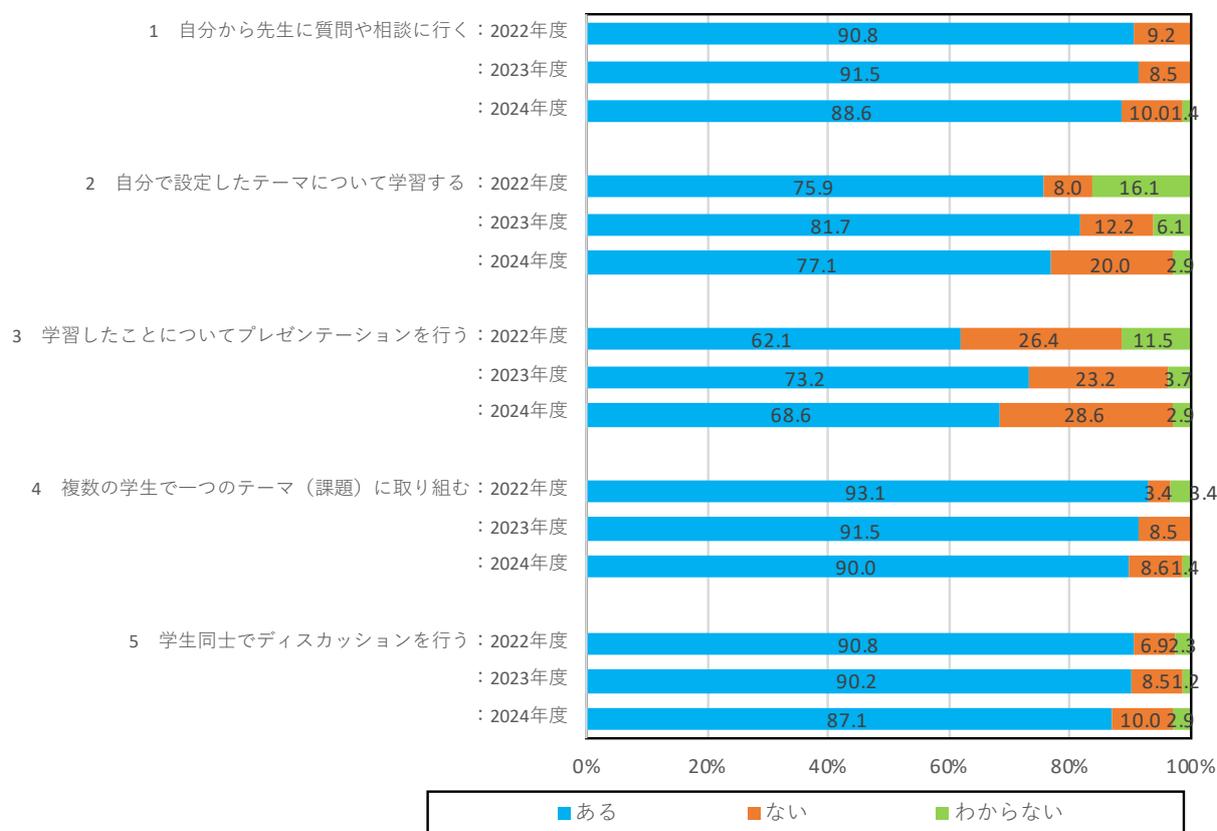


図9. 高校時代における能動的な学習の経験：学科別

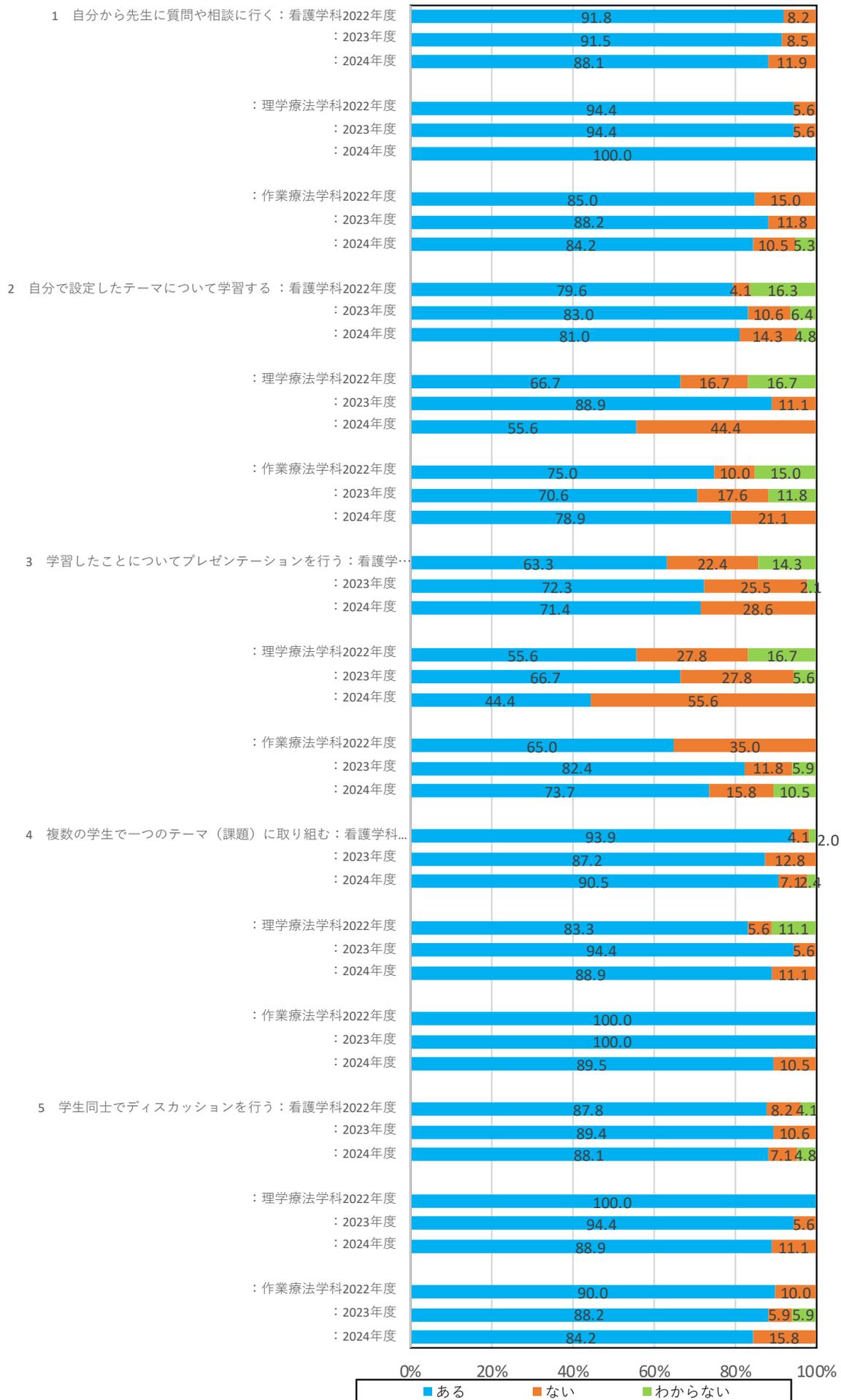


図10. 現時点（4月）での知識・能力の自己評価

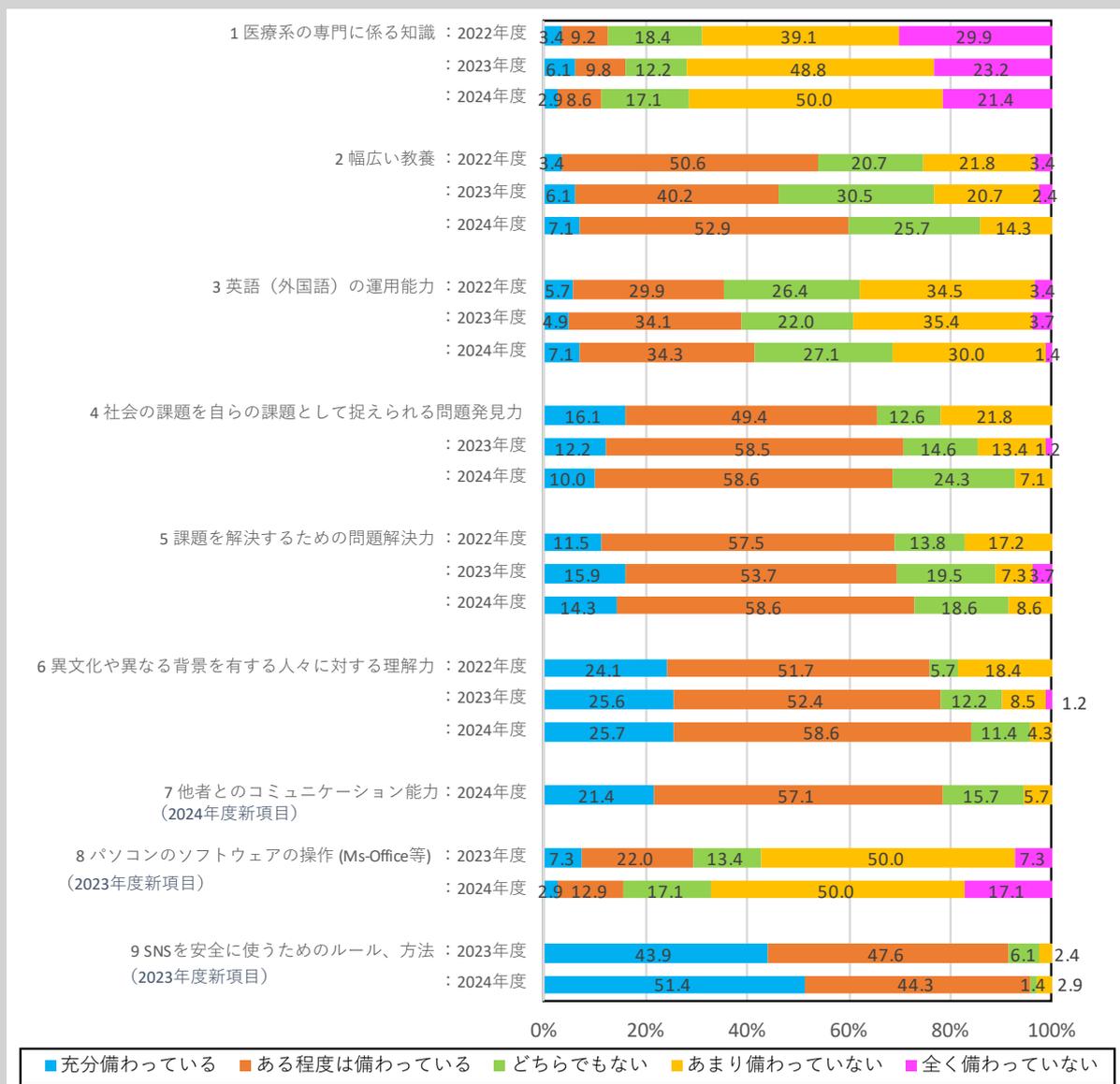


図11. 現時点（4月）での知識・能力の自己評価（学科別）（2024年度）

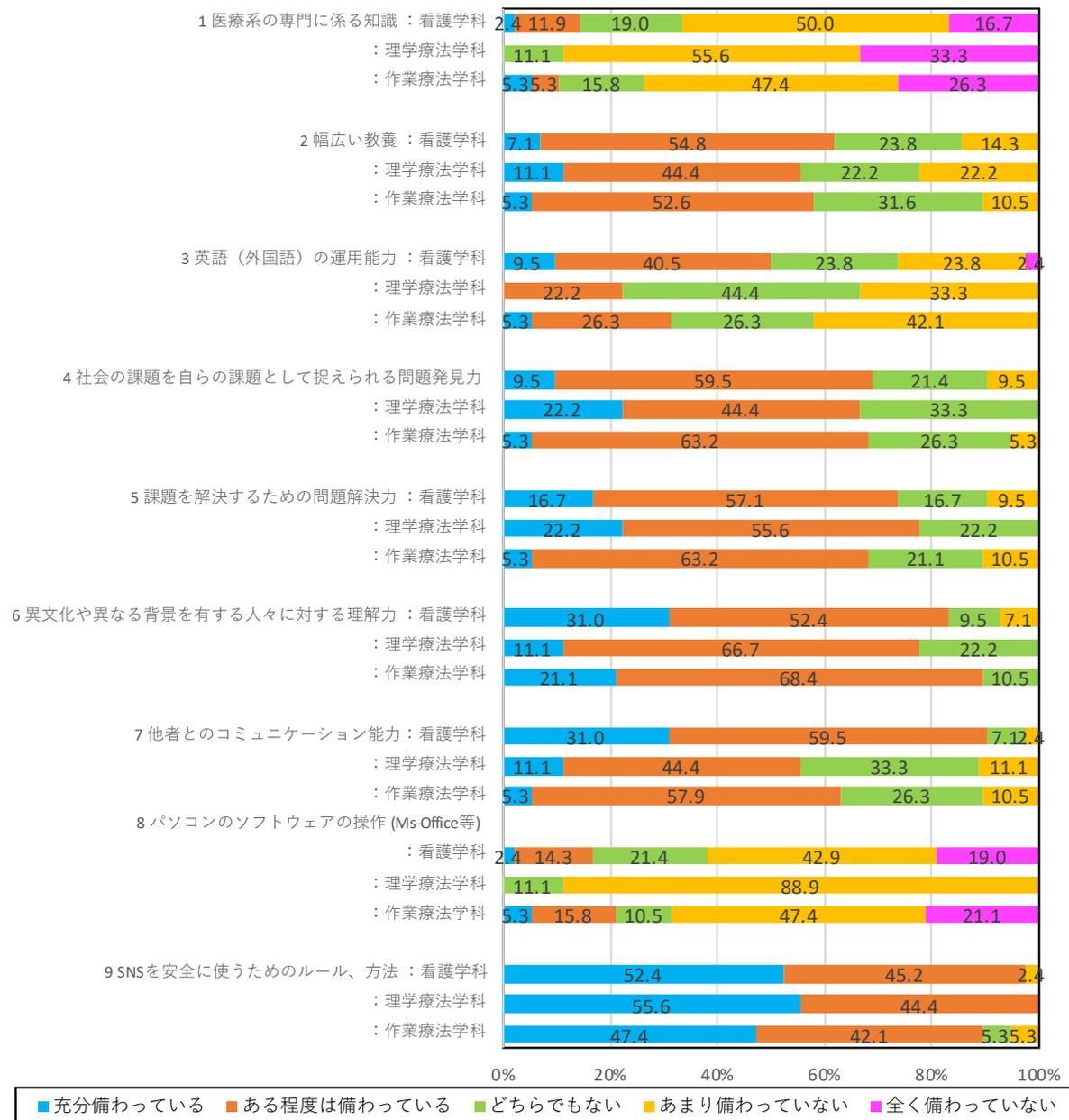


図12. 札幌医科大学を受験することを決定した時期

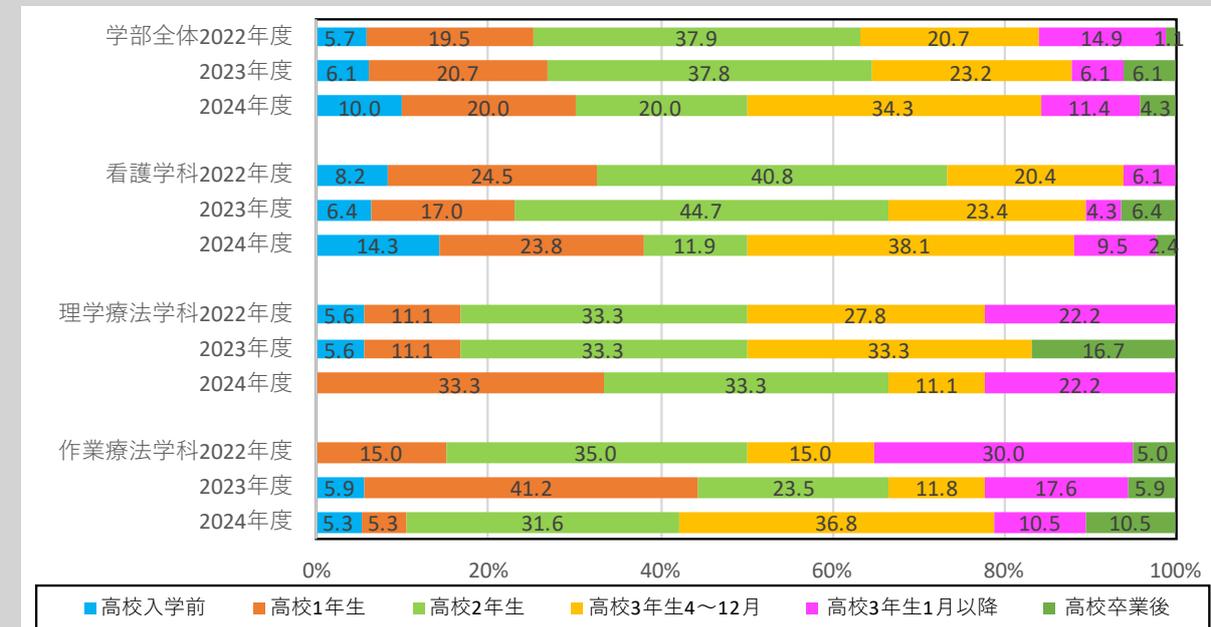


図13. 進路選択をする際に役立つ情報（複数選択）：学部全体

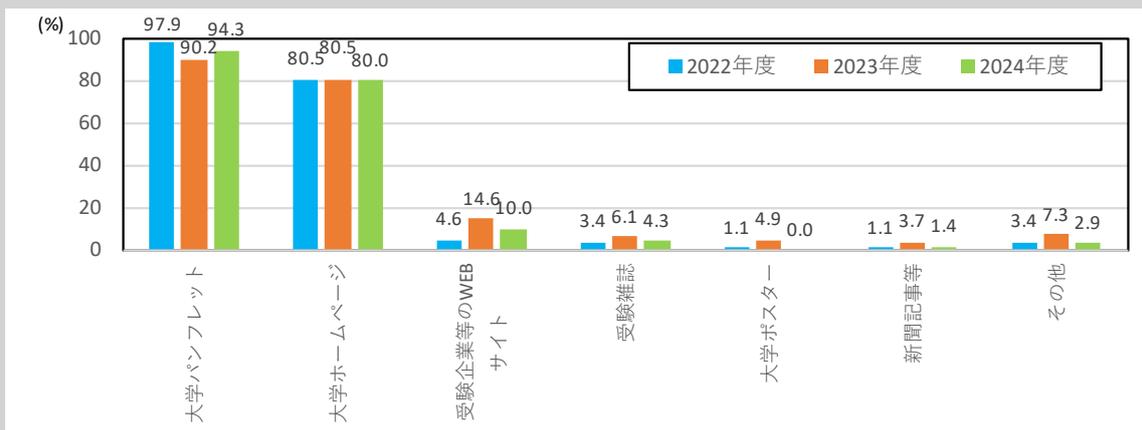


図14. 進路選択をする際に役立つ情報（複数選択）：学科別（2024年度）

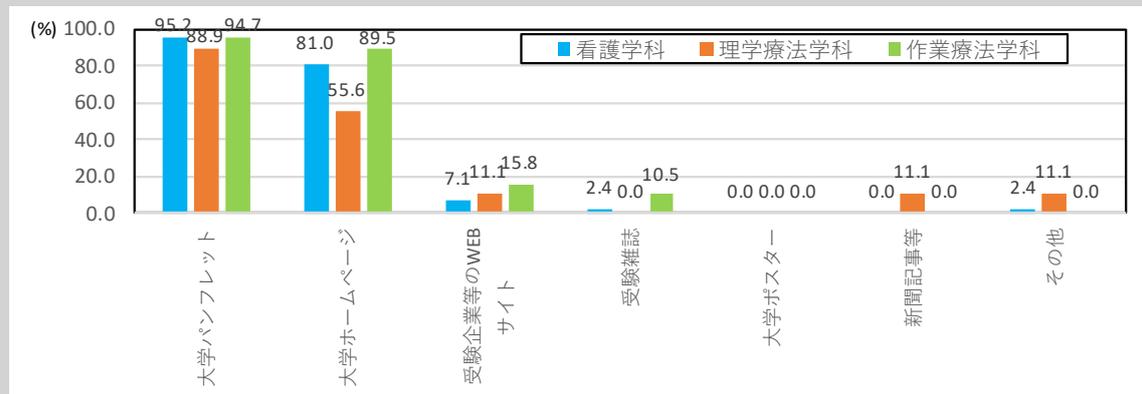


図15. 本学を知るうえで役立つ情報源（複数選択）：学部全体

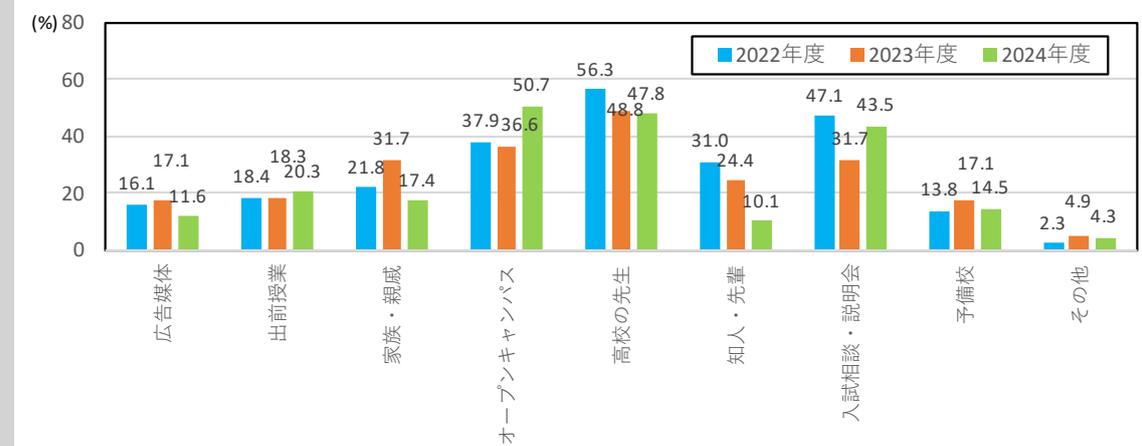


図16. 本学を知るうえで役立つ情報源（複数選択）：学科別（2024年度）

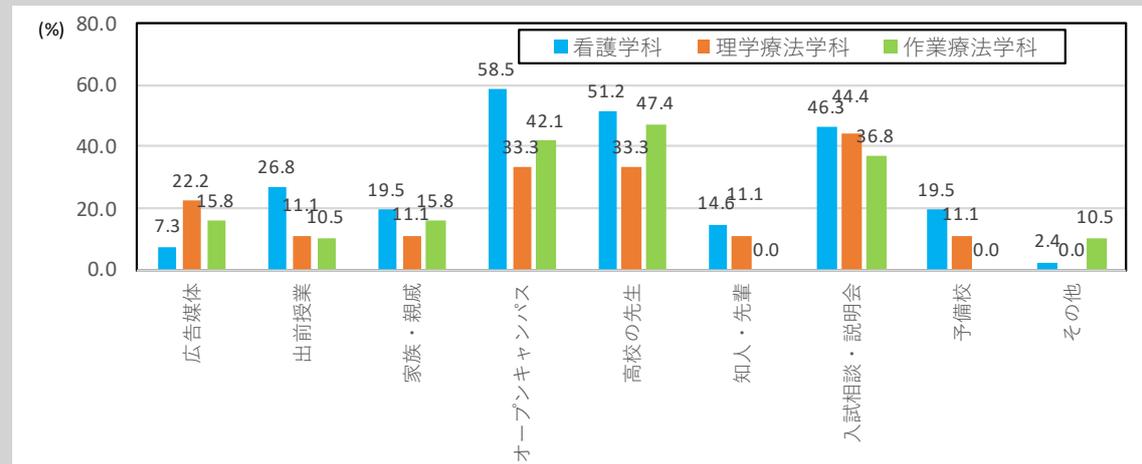


表1. 札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会への参加率（％）

学科	年度	オープンキャンパス	高校で実施された大学説明会	塾・予備校で実施された大学説明会	一般の会場で実施された大学説明会	その他、模擬授業など
学部全体	2022	51.7	73.6	3.4	6.9	21.7
	2023	54.9	62.2	8.5	11.0	28.0
	2024	54.3	77.1	5.7	5.7	20.0
看護学科	2022	51.0	75.5	2.0	8.2	24.5
	2023	55.3	68.1	8.5	10.6	27.7
	2024	64.3	64.3	9.5	4.8	19.0
理学療法学科	2022	50.0	66.7	5.6	0.0	16.7
	2023	66.7	61.1	5.6	11.1	33.3
	2024	33.3	77.8	0.0	0.0	33.3
作業療法学科	2022	55.0	75.0	5.0	10.0	15.0
	2023	41.2	47.1	1.8	11.8	23.5
	2024	42.1	57.9	0.0	10.5	15.8

図17. 札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会の満足度（参加者のみ）

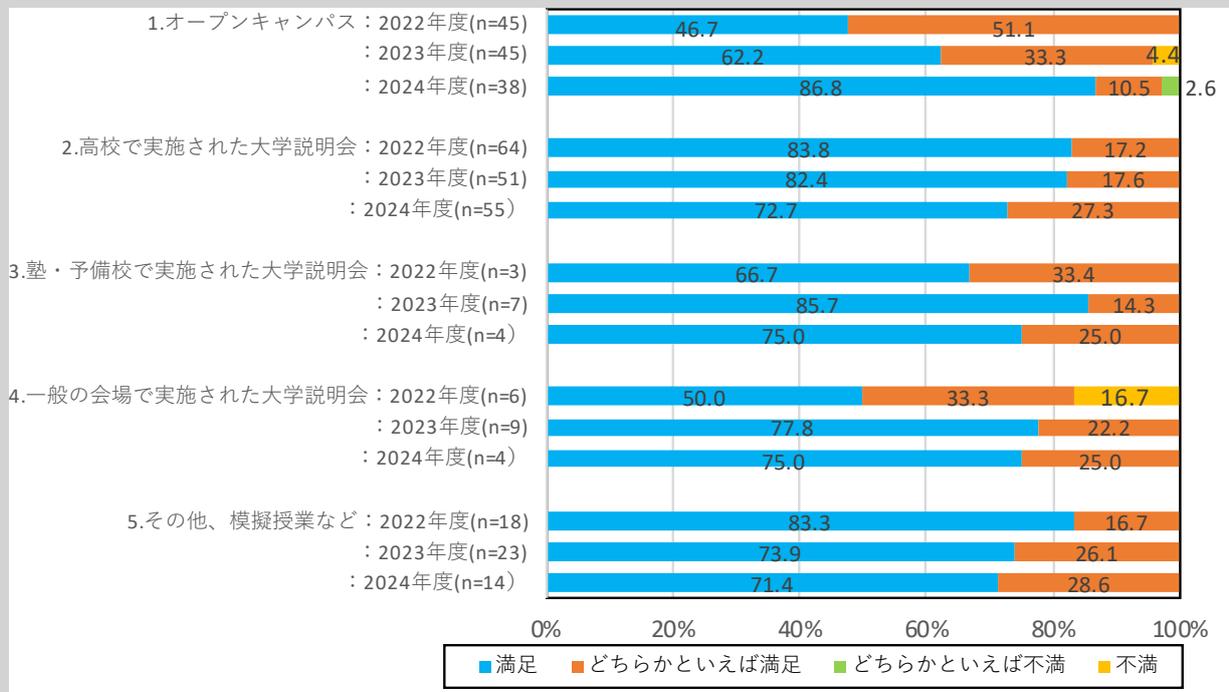


図18. 札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会の満足度(参加者のみ):学科別 *抜粋

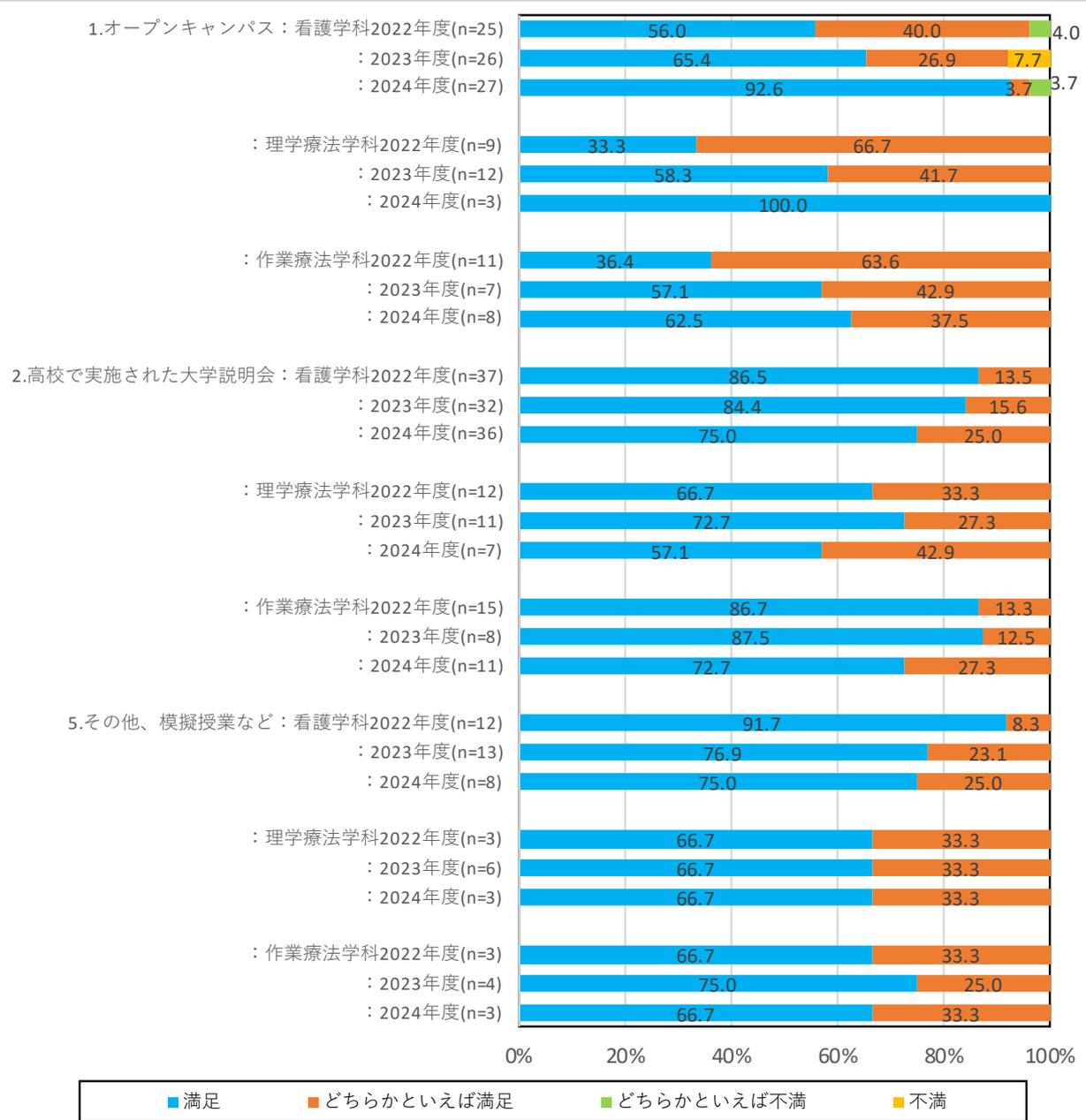


図19. 本学への入学(受験)を決めるにあたり、誰からの意見やアドバイスを最も重視したか

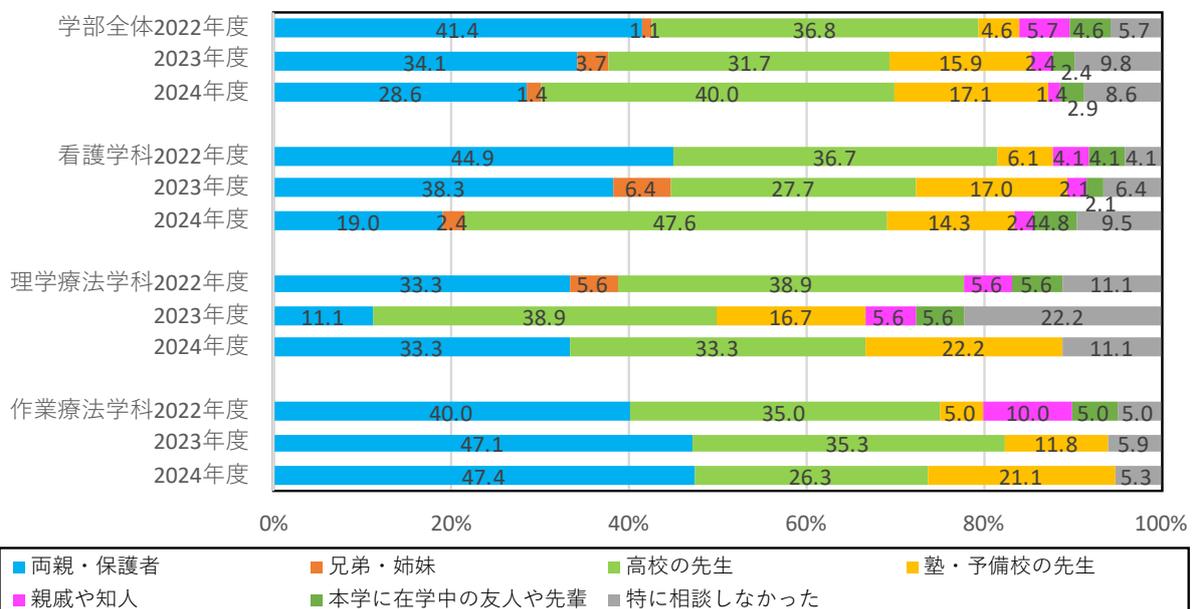


図20. 札幌医科大学の選択理由（学部全体）

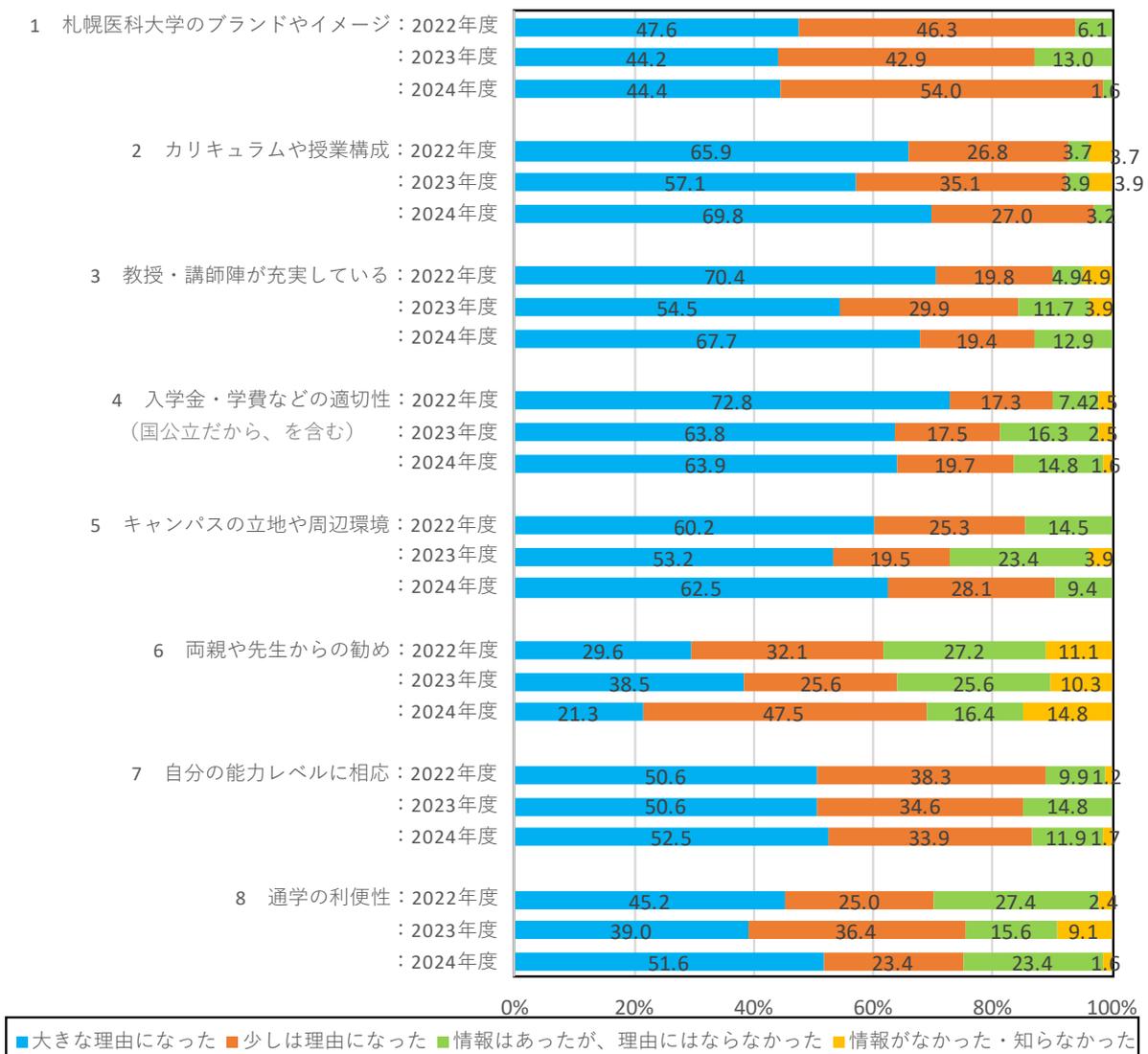


図21. 札幌医科大学の選択理由（学科別）（2024年度）

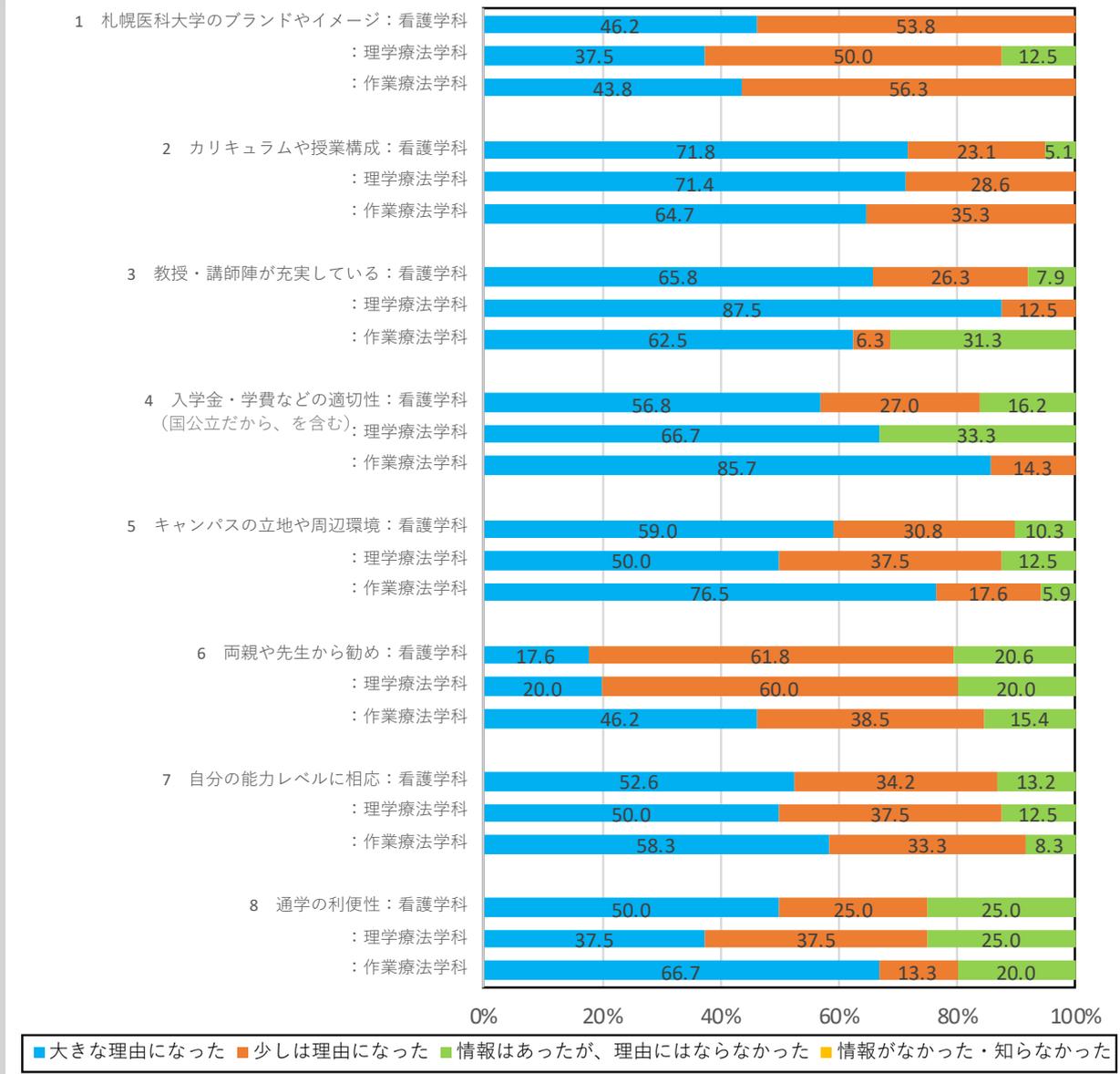


図22. 札幌医科大学の魅力

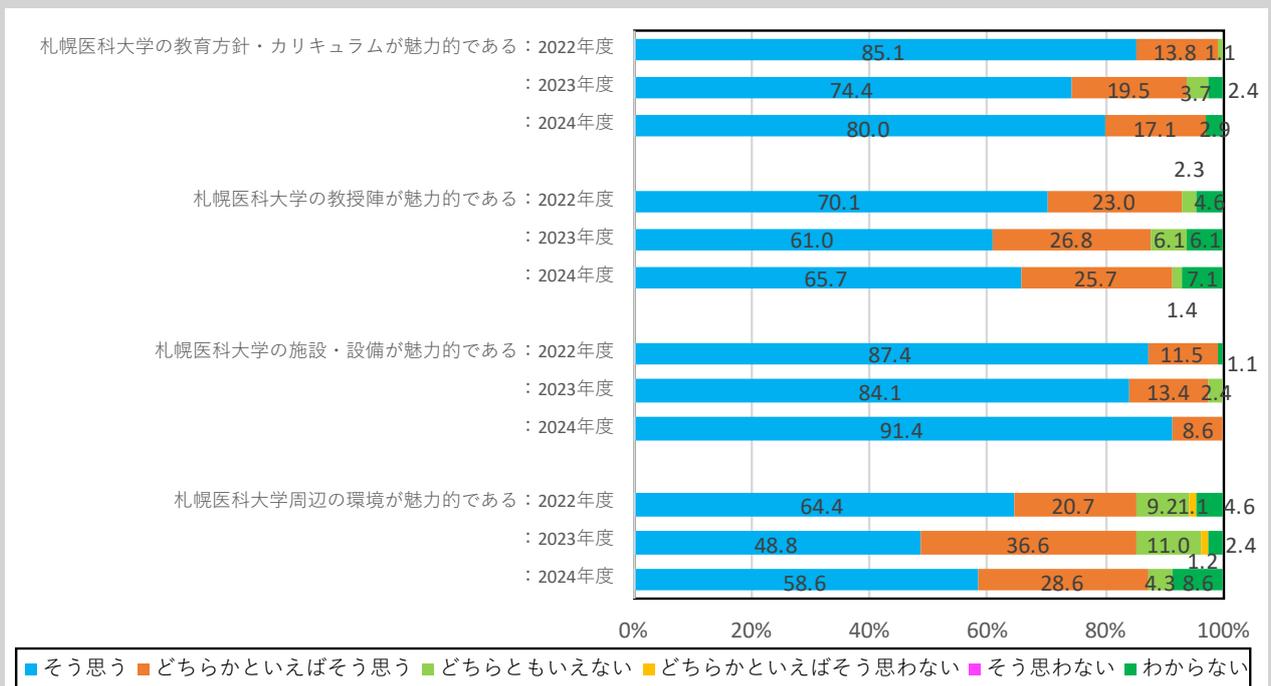


図23. 札幌医科大学の魅力（学科別）（2024年度）

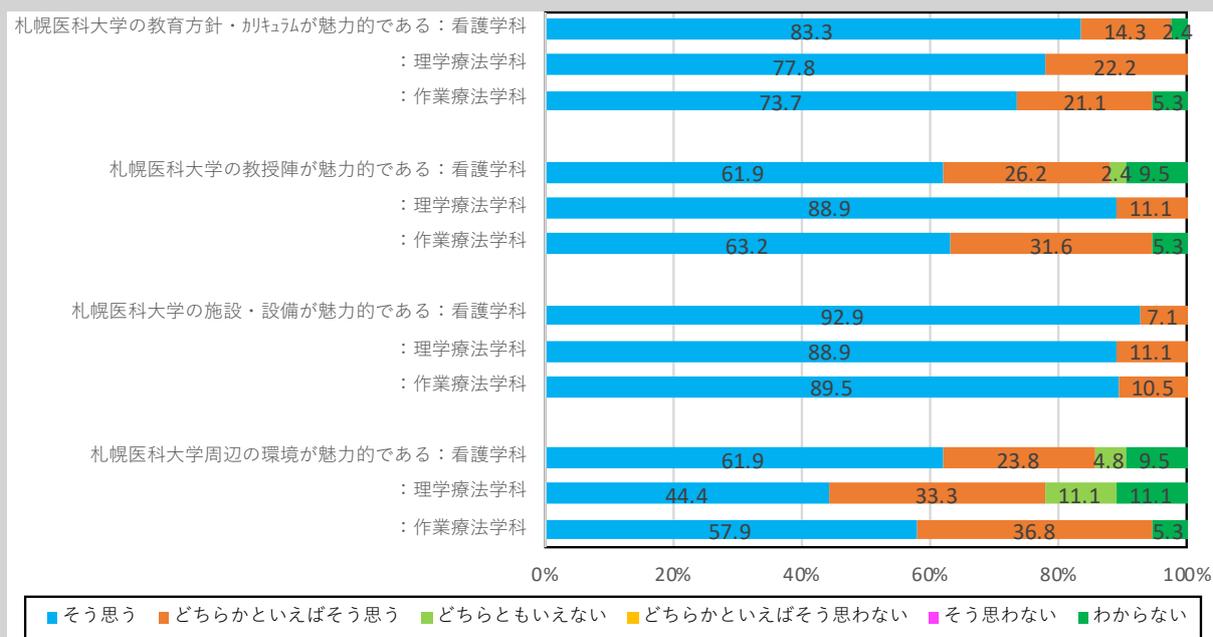


図24. 建学の精神（進取の精神と自由闊達な気風、医学・医療の攻究と地域医療への貢献）の認知度

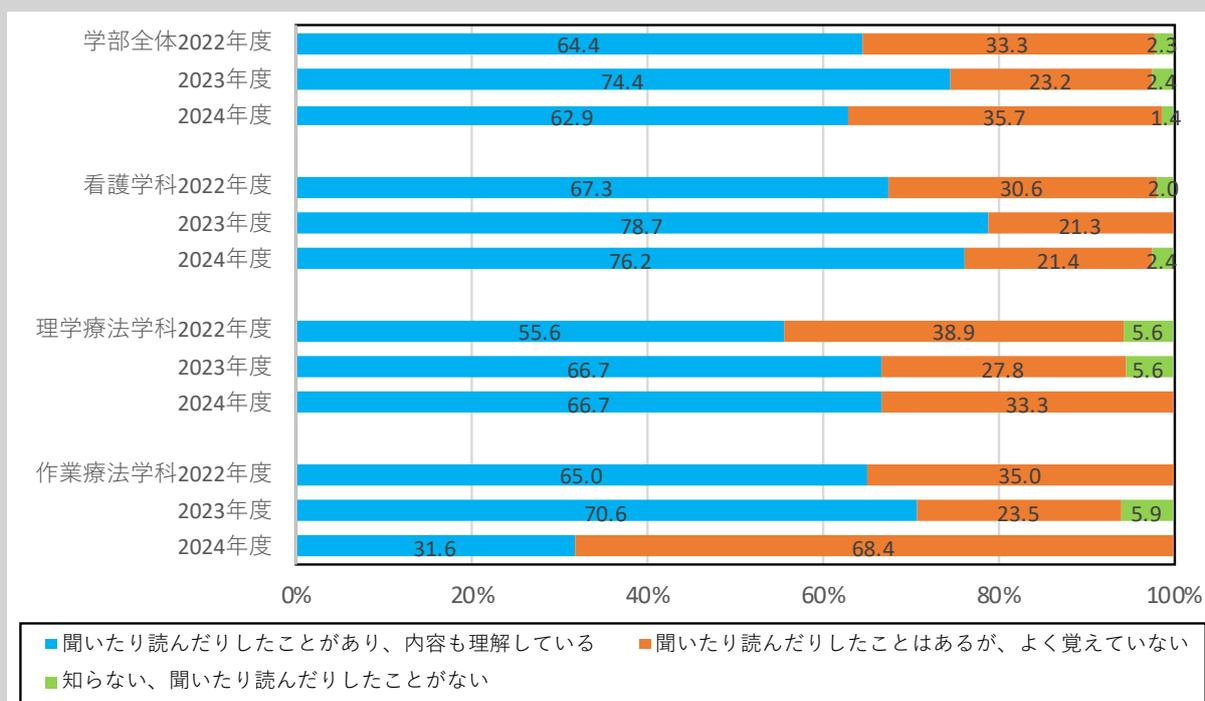


図25. アドミッションポリシーの認知度

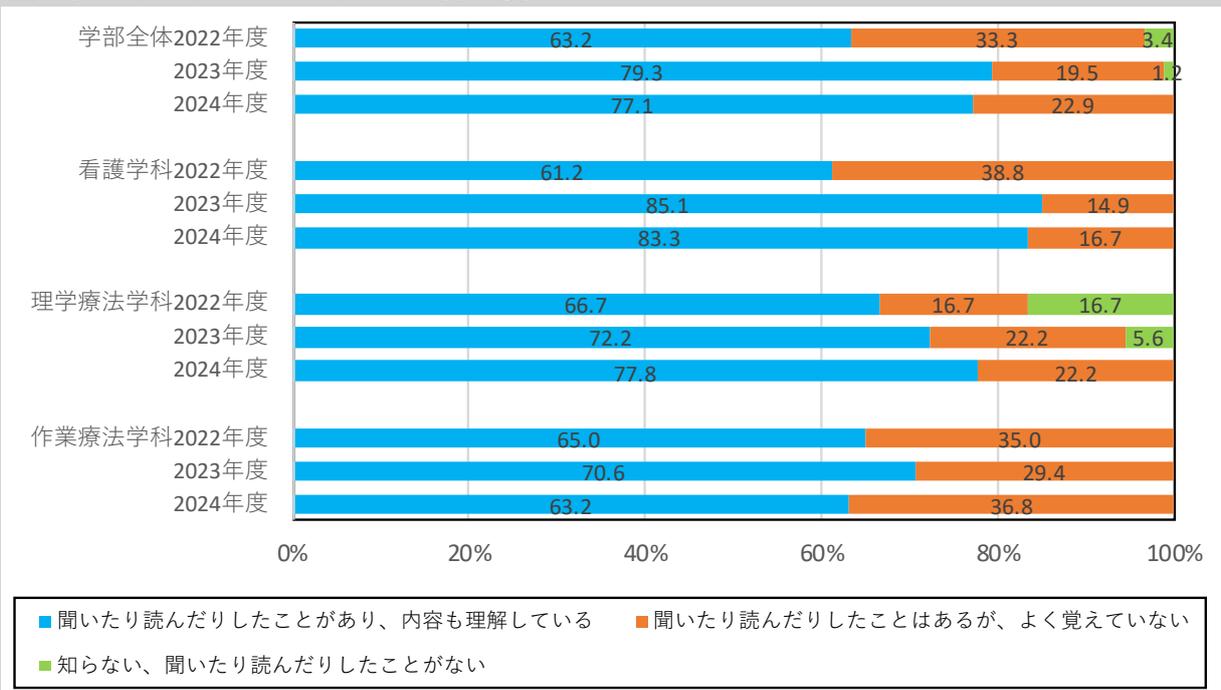


図26. 札幌医科大学への入学決定にあたっての気持ち：1. 入学を希望していた大学である

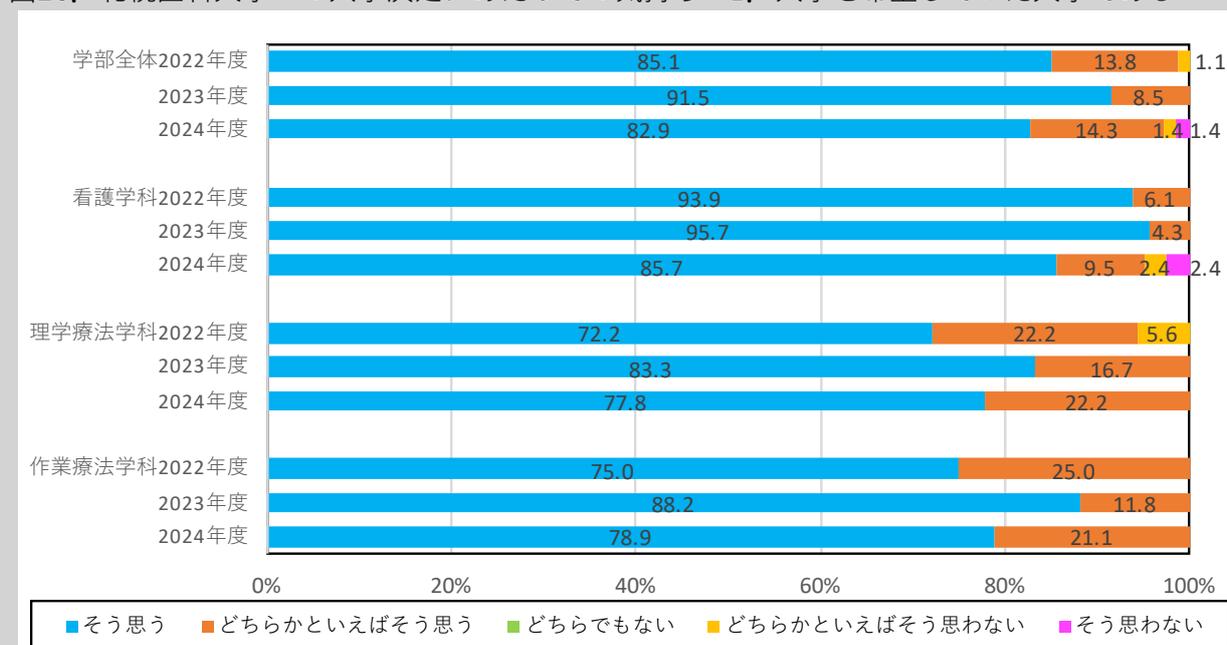


図27. 札幌医科大学への入学決定にあたっての気持ち:2.入学した学部は希望通りの学部である

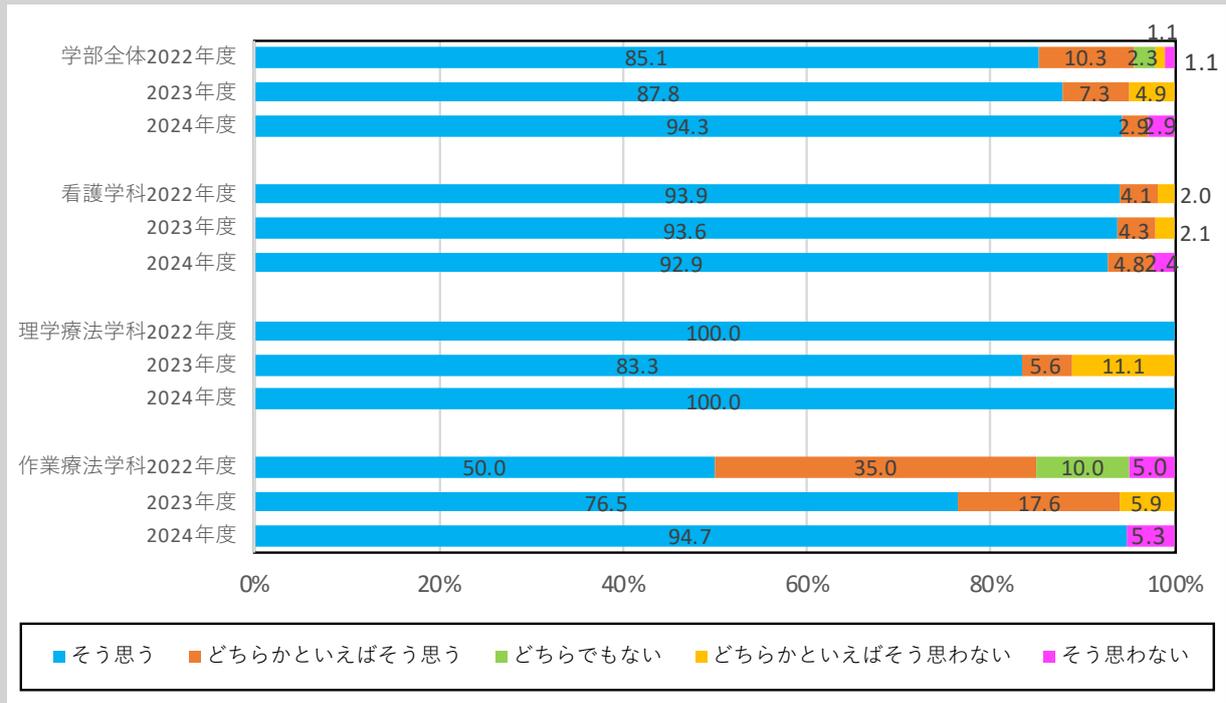


図28. 入学にあたって、不安に思っていること (複数回答可)

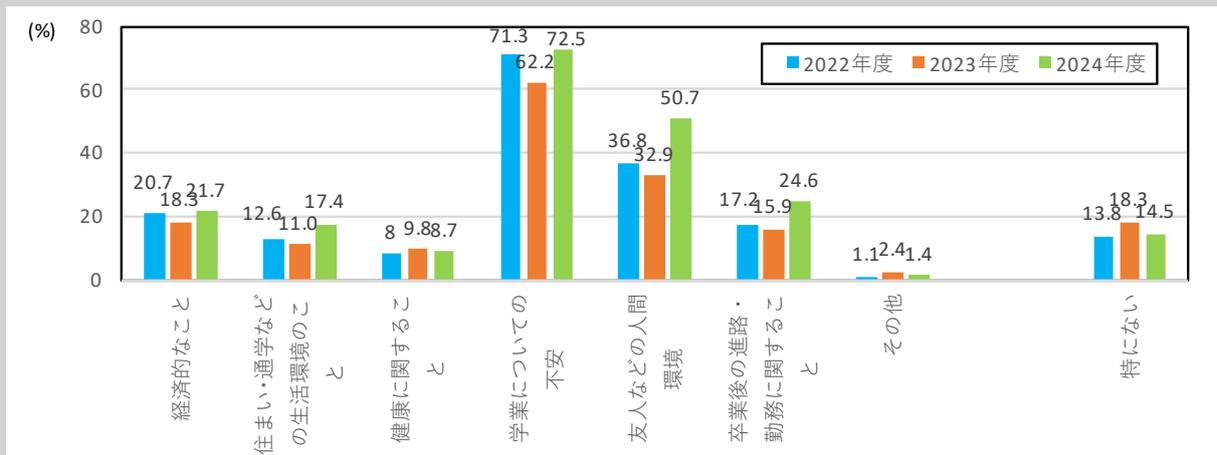


図29. 入学にあたって、不安に思っていること (複数回答可) : 学科別 (2024年度)

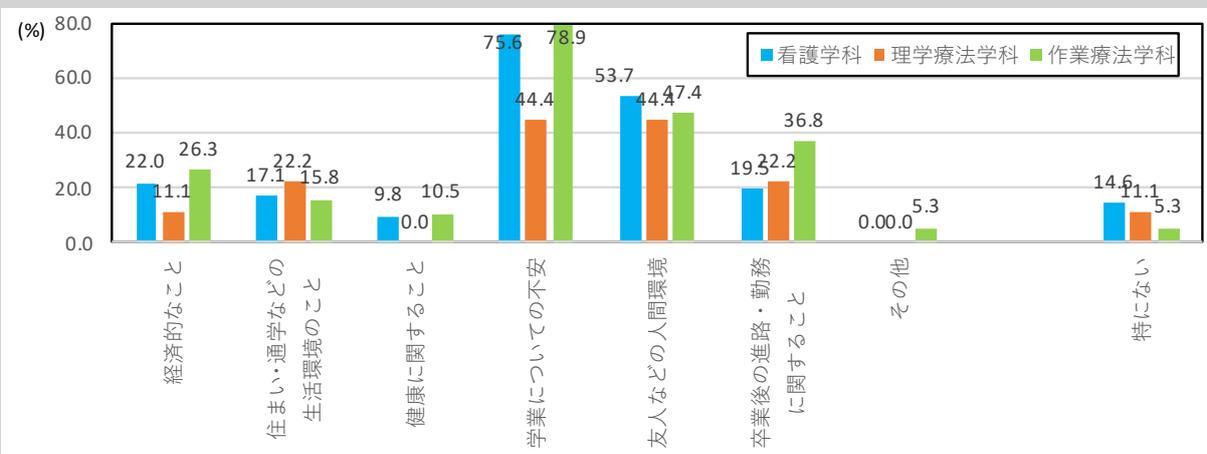


図30. 大学生活の中で力を入れたい活動

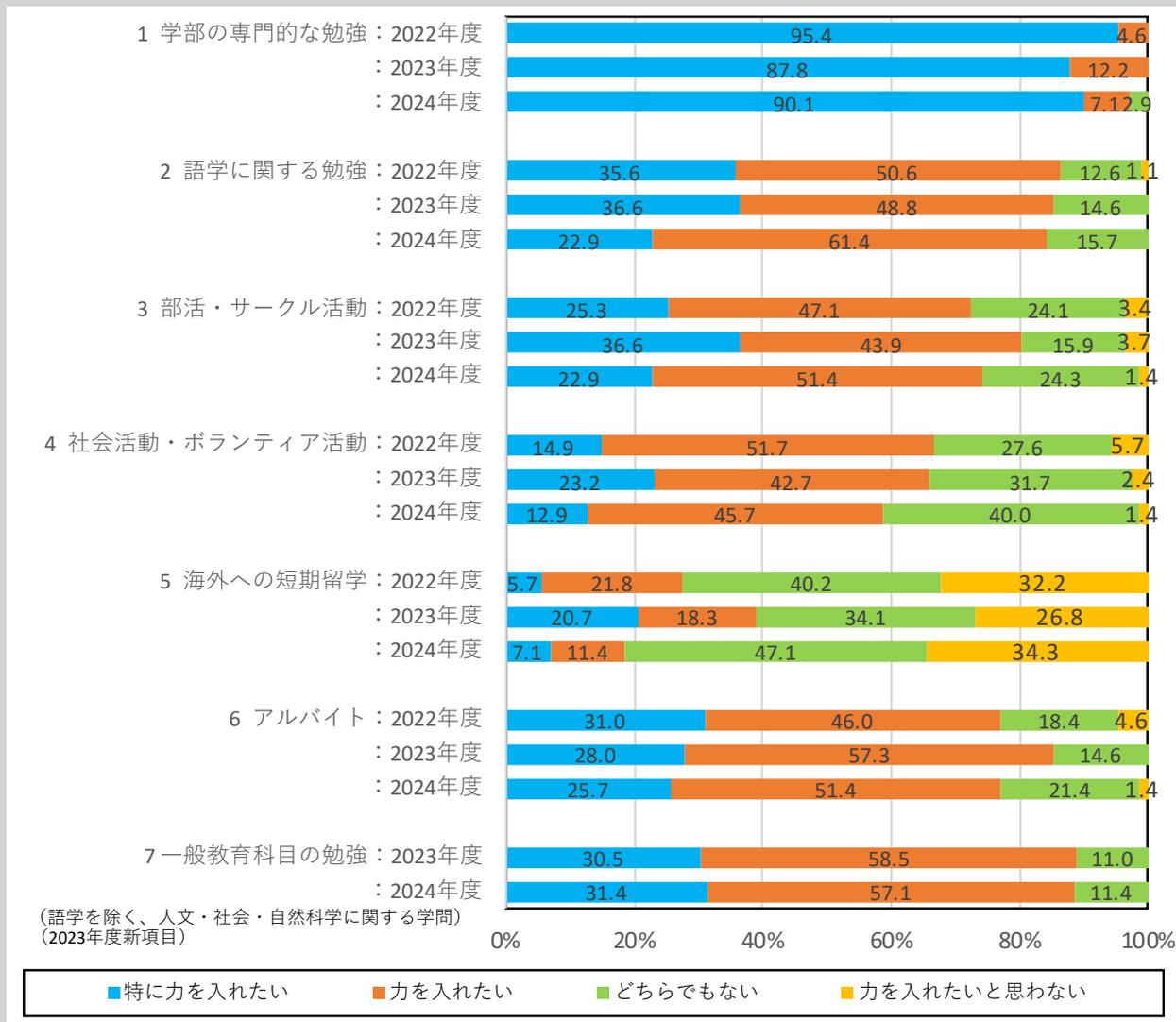


図31. 大学生活の中で力を入れたい活動（学科別）（2024年度）

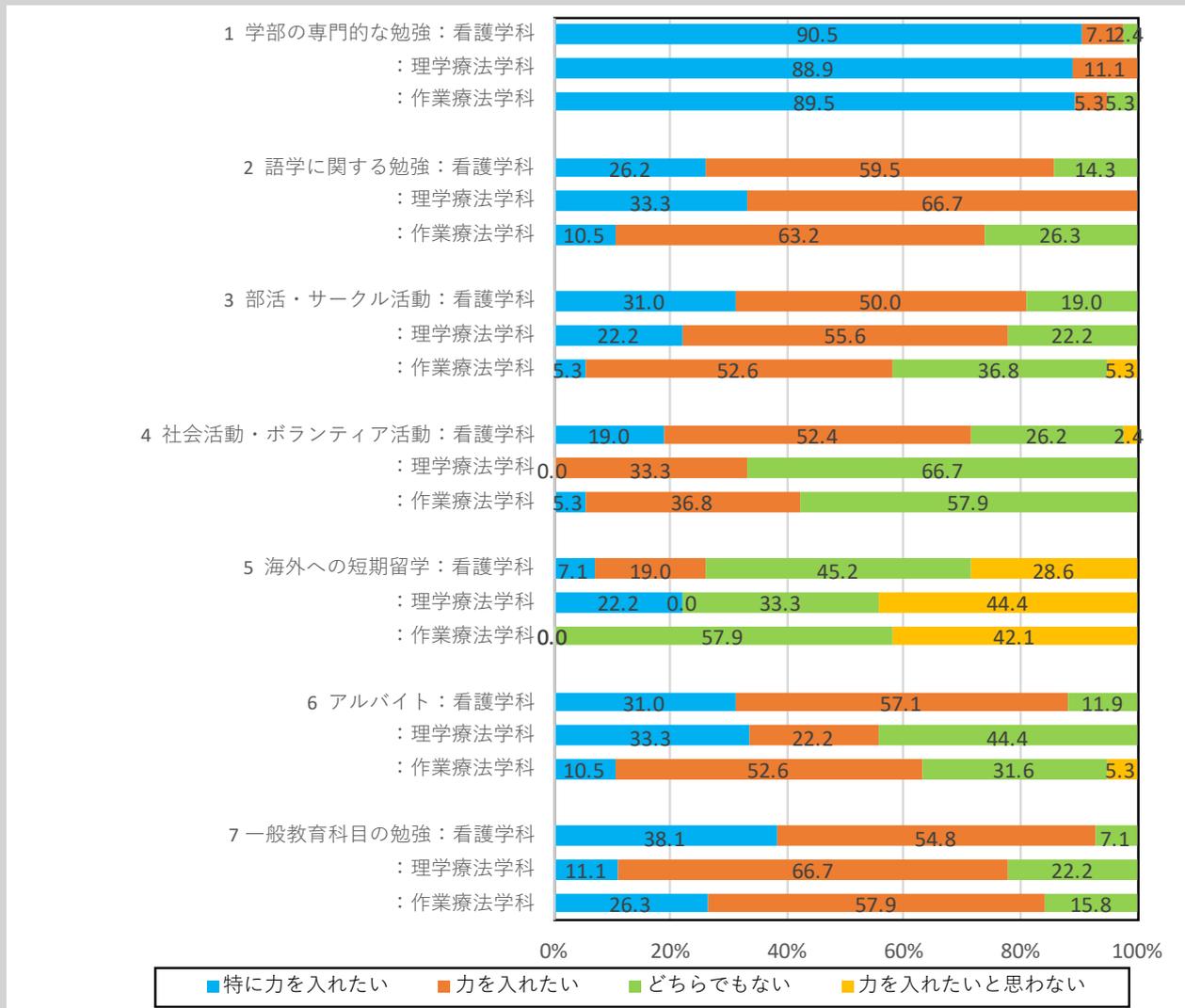


表2. 現在（4月）困っていること（自由記載）

<看護学科>

- ・A市から来た生徒が私しかいなく、友達ができるか不安です
- ・睡眠時間の確保
- ・帰宅時間が遅くなり、自宅を出発する時間が早まったことによる睡眠時間の確保
- ・PCが自宅にないため、機械をつかったりする部分が苦手なこと
- ・履修登録が不安です
- ・学サポのメールがGmailだったため、設定がまだできていないこと
- ・生活サイクルの安定
- ・授業についていけないか不安

<理学療法学科>

- ・学業面での不安

<作業療法学科>

- ・自分自身が忘れっぽいところ
- ・時間に余裕がないのが悩み（*記載を一部改変）

表3. 札幌医科大学で何を求め、どんなことに取り組みたいか（自由記載）

<看護学科>

- ・ 同学科他学科に関わらず色々な人と積極的にコミュニケーションをとること
- ・ 4年後、附属病院またはそれに準ずる地域への貢献ができる病院で力になりたいと考えているので1年次の前半から専門科目含め勉学していきたい。また、頭に入っても行動に移せないと意味が無いのでそこを追求していきたい。自分からできる範囲で実践的な演習にとりくみ、先生方から助言をいただいて、自分の理想とする医療人を再度追い求めていきたい
- ・ せっかく施設も教育も充実している札医で学べるので、知識量技術ともに患者さんが不安を感じない看護師になりたい
- ・ チーム医療についてよく理解し、スキルを身につけたい
- ・ ディスカッションや合同授業の中での活発な意見交流。他者への理解力や患者さんに寄り添う力をつけていくこと
- ・ よりよい医療人になるために看護に関する知識を身につけていきたい
- ・ 学びたいことを学びたいだけ学び、目標としている助産師像に近づきたい
- ・ 学科内で協力して共に立派な看護師になること。助産師や保健師などの進路についても考えていきたい
- ・ 学生の段階からチーム医療の基礎となるコミュニケーション力や判断力、行動力を育むことのできる環境を最大限活用して看護を学びたい
- ・ 患者やその家族に寄り添える医療従事者になるための人間力
- ・ 看護学における専門的な学び
- ・ 看護師になるための知識を身につけたい
- ・ 看護師に必要な知識を確実に身につけるとともに、多くの人とのコミュニケーションを通して人間性を高め大きく成長したい。振り返った時に充実した大学生活だったと言えるように日々の努力を怠らずいろんなことに挑戦してみたい
- ・ 自分で課題を設定して何かに取り組んだ経験が乏しいので、その点に力を入れて取り組みたいです
- ・ 自分の考えをしっかりと持って伝えることができるように、積極的にグループワークなどに参加していきたいです
- ・ 自分の専門とする看護学科の人だけではなく他の保健医療学部の人、また医学部の人とも積極的にコミュニケーションをとり他職種連携にも力を入れて学んでいきたいです
- ・ 周りの人と励まし合いながら、看護に関することだけでなく人として成長すること
- ・ 人と接する時に、先入観ではなくその人をしっかりみることをできるようになりたい
- ・ 専門的な知識とコミュニケーションの築き方を学びたい
- ・ 他者とのコミュニケーション能力を高めたい。講義内外で積極的に人と関わる。勉強を能動的に行う
- ・ 知識の習得に加えて、得た知識を発揮できる実践力もしっかりと付けていきたい。何事にも自発的に取り組んでいきたい
- ・ 地域医療を支えるための学びに力を入れたいです
- ・ 幅広い知識と技術を身につけることを目標に、大学の授業では積極的に学び、自主自学により知識の定着をはかりたい
- ・ 保健師になれるように日々努力していきたい
- ・ 目指す看護師になれるように学習を頑張りたい
- ・ より多くの考え方に触れ、自分の価値観を広げていきたい
- ・ また、部活動やアルバイトなど様々なことに挑戦して成長したい

<理学療法学科>

- ・アメリカで活躍するという夢を叶えるための環境。口だけの目標にならないよう行動に移すよう努力していきます
- ・スポーツ理学療法学の勉強に力を入れたいです
- ・医療の専門的な知識、それを実践できる技術、コミュニケーション能力を身につけたい
- ・医療者としての人間性を求めたい
- ・現場で使える実践的な知識、経験を積むため、講座・演習に力を入れたい
- ・高度な医療知識を身につけて、将来の仕事などに生かしたい

<作業療法学科>

- ・WFOT認定の質の高いカリキュラムに魅力を感じ入学しました。将来は海外で働く可能性も視野に入れて、幅広く学んでいきたいと考えています
- ・まずは基礎知識を固め、土台を作りたいと思っています。そして、患者さんとのコミュニケーションを円滑に取れるようになりたいです。また、楽しいと思えるリハビリ方法を考えたいです
- ・医療人のあり方について学び、専門分野に力を入れたい
- ・患者さんにいろいろな選択肢を提示することができるように専門的な知識や医療技術を身に付けたい。実習では現場で求められていることを感じとれるようによく周りを観察したい
- ・作業療法について詳しく学びたい
- ・作業療法士にとって必要なものを身に付けたい
- ・周りをよく見れる医療人になるために、コミュニケーションのとり方や医療についての知識を学びたい
- ・深い知識を学ぶために、多くの先生と生徒と関わり、意欲的に学んでいきたいです
- ・進路実現を求め、理想の作業療法士像に向けて勉学に励みたい
- ・専門的な分野について深い知識をつけたい
- ・他の大学では学べない一般教養科目の展開があるので、それを学んでみたいです
- ・日頃から学業に励んでいきたい
- ・立派な作業療法士になる
- ・自分の性格などを見極めて将来に活かせるようにしていきたい

IV. 資料 (調査票)

学籍番号 () 氏名 ()

以下の設問について、選択で回答するものについては、数字に○をつけ、記入して回答するものについては、具体的に記入してください。

①あなたが高校3年生(2月時点)の時に居住していた地域を教えてください。

1	札幌市内	2	札幌市外(北海道内)	3	札幌市外(北海道外)
---	------	---	------------	---	------------

②あなたが入学した入試区分を選択してください。

1	一般選抜	2	学校推薦型選抜		
---	------	---	---------	--	--

③あなたが進路選択をする際に役立つ情報を選択してください(複数選択可)

1	大学パンフレット	2	大学ホームページ	3	大学ポスター
4	受験企業等のWEBサイト	5	受験雑誌	6	新聞記事等
7	その他 ()				

④あなたが本学を知るうえで役立つ情報源を選択してください(複数選択可)

1	広告媒体	2	オープンキャンパス	3	入試相談・説明会
4	出前授業	5	高校の先生	6	予備校
7	家族・親戚	8	知人・先輩	9	その他 ()

⑤札幌医科大学への入学決定にあたって、あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。

		そう思 う	どちら かとい えばそ う思う	どちら でもな い	どちら かとい えばそ う思わ ない	そう思 わない
1	入学を希望していた大学である	5	4	3	2	1
2	入学した学部は希望通りの学部である	5	4	3	2	1

⑥あなたは、高校3年生の9月（昨年の9月）頃において、平日に学校等の授業以外で1日平均何時間くらい勉強していましたか。（授業の予復習のほか、予備校、学校での課外の補習・講習を含む）

1	ほとんどしなかった	2	1時間未満	3	1～3時間未満
4	3～5時間未満	5	5～7時間未満	6	8時間以上

⑦あなたは、高校時代の学習において、以下の様な経験をしたことがありますか。

		ある	ない	わからない
1	自分から先生に質問や相談に行く	3	2	1
2	自分で設定したテーマについて学習する	3	2	1
3	学習したことについてプレゼンテーションを行う	3	2	1
4	複数の生徒で一つのテーマ（課題）に取り組む	3	2	1
5	生徒同士でディスカッションを行う	3	2	1

⑧札幌医科大学を受験することを決定したのはいつ頃ですか。

1	高校入学前	2	高校1年生	3	高校2年生
4	高校3年生4～12月	5	高校3年生1月以降	6	高校卒業後

⑨あなたは進学や受験の時に、どんなことを理由に札幌医科大学を選びましたか。

		大きな理由になった	少しは理由になった	情報はあったが、理由にはならなかった	情報がなかった・知らなかった
1	札幌医科大学のブランドやイメージ	4	3	2	1
2	カリキュラムや授業構成	4	3	2	1
3	教授・講師陣が充実している	4	3	2	1
4	入学金・学費などの適切性（国公立だから、を含む）	4	3	2	1
5	キャンパスの立地や周辺環境	4	3	2	1
6	両親や先生から勧め	4	3	2	1
7	自分の能力レベルに相応	4	3	2	1
8	通学の利便性	4	3	2	1

⑩札幌医科大学への入学（受験）を決めるにあたり、もっとも重視したのは誰からの意見やアドバイスでしたか。

1	保護者	2	兄弟・姉妹	3	高校の先生
4	塾・予備校の先生	5	親戚や知人	6	本学に在学中の友人や先輩
7	特に相談しなかった				

⑪札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会に参加した際の満足度についてお答えください

		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	参加せず
1	オープンキャンパス	4	3	2	1	0
2	高校で実施された大学説明会	4	3	2	1	0
3	塾・予備校で実施された大学説明会	4	3	2	1	0
4	一般の会場で実施された大学説明会	4	3	2	1	0
5	その他、模擬授業など	4	3	2	1	0

⑫あなたが考える札幌医科大学の魅力についてお答えください。

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
1	札幌医科大学の教育方針・カリキュラムが魅力的である	5	4	3	2	1	0
2	札幌医科大学の教授陣が魅力的である	5	4	3	2	1	0
3	札幌医科大学の施設・設備が魅力的である	5	4	3	2	1	0
4	札幌医科大学周辺の環境が魅力的である	5	4	3	2	1	0

⑬あなたは札幌医科大学の建学の精神（「進取の精神と自由闊達な気風」「医学・医療の攻究と地域医療への貢献」）であることを知っていますか

1	聞いたり読んだりしたことがあり、内容のも理解している	2	聞いたり読んだりしたことはあるが、よく覚えていない
3	知らない、聞いたり読んだりしたことがない		

⑭あなたは札幌医科大学保健医療学部のアドミッション・ポリシー（大学がどのような学生を入学者として求めているか明文化したもの）を知っていますか。

1	聞いたり読んだりしたことがあり、内容のも理解している	2	聞いたり読んだりしたことはあるが、よく覚えていない
3	知らない、聞いたり読んだりしたことがない		

⑮現時点であなたは、以下の知識・能力についてどの程度備わっていると考えていますか。

		充分備わっている	ある程度は備わっている	どちらでもない	あまり備わっていない	全く備わっていない
1	医療系の専門に係る知識	5	4	3	2	1
2	幅広い教養	5	4	3	2	1
3	英語（外国語）の運用能力	5	4	3	2	1
4	社会の課題を自らの課題として捉えられる問題発見力	5	4	3	2	1
5	課題を解決するための問題解決力	5	4	3	2	1
6	異文化や異なる背景を有する人々に対する理解力	5	4	3	2	1
7	他者とのコミュニケーション能力	5	4	3	2	1
8	パソコンのソフトウェアの操作（Word, Excel, Powerpoint など）	5	4	3	2	1
9	SNS を安全に使うためのルール、方法	5	4	3	2	1

⑯大学生活の中でどのような活動に力を入れたいと考えていますか。

		特に力を入れたい	力を入れたい	どちらでもない	力を入れたいと思わない
1	学部の専門的な勉強	4	3	2	1
2	語学に関する勉強	4	3	2	1
3	一般教育科目の勉強（語学を除く、人文・社会・自然科学に関する学問）	4	3	2	1
4	部活・サークル活動	4	3	2	1
5	社会活動・ボランティア活動	4	3	2	1
6	海外への短期留学（短期は不要では）	4	3	2	1
7	アルバイト	4	3	2	1

⑰入学後の住まいについて教えてください。

1	自宅（親所有の家・マンション等）	2	アパート（賃貸）
3	下宿・寮	4	その他（ ）

⑱入学後の主な通学手段を教えてください。（複数選択可）

1	徒歩	2	自転車	3	地下鉄
4	バス	5	市電	6	その他（ ）

⑱入学にあたって、不安に思っていることを教えてください。(複数回答可)

1	経済的なこと	2	住まい・通学などの生活環境のこと	3	健康に関すること
4	学業についての不安	5	友人などの人間環境	6	卒業後の進路・勤務に関すること
7	特にない	8	その他 ()		

⑳あなたは自分専用あるいは家族で共有しているパソコンを持っていますか。

1	自分専用の PC を持っている	2	持っていない		
---	-----------------	---	--------	--	--

㉑で回答した PC から印刷できるプリンターがありますか。

1	ある	2	ない		
---	----	---	----	--	--

㉒あなたは札幌医科大学で、何を求め、どんなことに取り組みたいですか。(自由記載)

--

㉓現在、何か困っていることがあれば教えてください。(自由記載)

--